

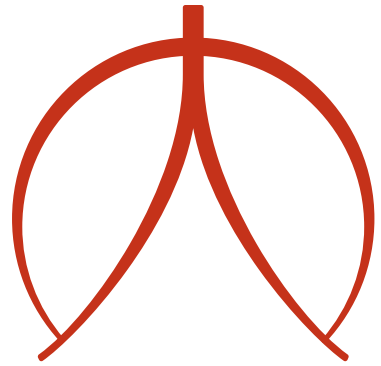
大谷大学広報

編集 大谷大学広報編集委員会

No.173

2007年11月5日

2007 秋



秋は夜長

もし1日が27時間になったら
何の時間を増やす？

学問のしおり

「浄土」教の可能性
山野 俊郎

国際交流トピックス

2007大谷大学紫明祭

谷大エリア散策

ボンニー美容室

写真でふりかえる大谷大学今昔 研究室（その二）

SQUARE

京都検定
或いは「一種異様なもの」
大秦 一浩

冬扇

9月末、第3回モンゴル・日本文化フォーラムが「有形及び無形文化遺産の保存・保護」をテーマに開催され、私は日本側の一員として「遊牧民の文献・碑文研究」という報告を行った。1994年以来、モンゴル草原に散在する碑文史料の記録・保存プロジェクトを日モ共同で進めてきた経験から、こうした碑文史料は8世紀以来今日に至るまでこの地を往来した様々な人々によって、モンゴル語だけでなく、トルコ、ソグド、契丹、女真、漢、ペルシア、チベッ

トなど多くの言語・文字で記されたものであり、それらはモンゴルの文化財であると同時に世界遺産でもあるという観点から、保存・保護を行わなければならないと訴えた。

2004年にかつてのモンゴル帝国の首都カラコルムやウイグルの都カラバルガスなどがモンゴルで初めてユネスコの世界文化遺産に登録された結果、モンゴル国内でも遺跡保護の機運は高まりつつある。その一方、去る7月、現地をご訪問された皇太子殿下に、草原に放置されたカラバルガス碑文の碑片についてご説明申

し上げながら、それらが雨ざらしにされている現状を知って私の心は痛んだ。しかも10年前の調査で18個と数えた碑片の幾つかは無くなっていた。

フォーラムは、日モ両政府に対し、危機に瀕した文化財に保護柵や上屋といった保護手段を緊急手当てするなど6項目の提議書を作成し、閉幕した。この機会に、モンゴルが「世界遺産の国」として再評価されることを願いたい。（松川 節）

秋は夜長

もし1日が27時間になったら何の時間を増やす？

尾花の穂先がかすかにゆれています。耳をすますと、虫の音が聞こえます。

秋の夜は長い。もし1日が25時間、26時間、そして27時間になったら、あなたはどのような生活を送りますか？ 勉強・睡眠・読書・音楽・仕事？ 充実した毎日になるのでしょうか。それとも…？

真夜中の12時になったら、月明かりのもとで時計の針をじっと見つめてみてください。あなたはすでに不思議な時間のなかに身をゆだねているかもしれません。



カクテル—無限の楽しみ

西河 はる華

秋の夜長について、1日が3時間長くなったというテーマをいただいた時は、素直に晩酌が普段より楽しめるということしか浮かばなかった。自他共に認める大の酒好きである私にとって、晩酌は毎日の欠かせぬイベントだ。そのためか少し前にシェーカーを購入し、今は専ら自作カクテルを楽しむ晩酌となっている。麦焼酎や色とりどりのリキュールに囲まれる夜はそう悪くはない。特に私は恵まれた環境にあり、ダイヤモンドダストの如き大阪の夜景が一望できる部屋を両親から与えられている。その夜景を見下ろして楽しむカクテルは自作であれども不思議と美味に感じるものだ。

夜景に彩られて浮かぶカクテル

グラス、仄暗い灯に照らされる炭酸の泡。ソーダ水で割って楽しむ、見た目にも涼しげで爽やかなクーラーと呼ばれる種類は浮かんで消える泡が幻想的で美しい。かつて豊臣秀吉が“浪速のことも夢のまた夢”と詠んだが、夜景に栄えるカクテルグラスのクーラーは実にその歌の如き飲料だと思う。

カクテルには大きく分けて21の種類がある。初めてのアルバイトがバーテンダーのアシスタントであったことがきっかけで、今まで洋酒から日本酒と数多くのアルコール類に触れてきた。その中でもカクテルというものは混ぜ合わせる酒類とジュース類の比率、混ぜ合わせ方、果ては注ぐグラスが異なるだけで名称などが変わる。いわば無限の楽しみが存在するのだ。

私が晩酌に日本酒でもなく、焼酎でもなく、カクテルを選ぶ理由はファッションのように無限の楽しみがあるからだ。気分に合わせて服装を変えるように、また晩酌

も気分に合わせて味を変える。せっかくの夜長と呼ばれる季節なのだから、夜景を肴にファッショナブルなグラスを傾ける“大人の夜”を満喫するのも悪くないのではないだろうか。

(にしかわ はるか)
仏教学科 第2学年



愛用のカクテルグッズ



午前3時を想う

藤枝 真

時間の使い方が絶望的なまでに下手である。子どもの頃から時間の使い方に無駄が多く、今やらなければいけないことを先延ばしにして、今やらなくてもいいことに熱中してしまう。その結果、やらなければいけないことを期限の直前になってから大慌てでやるのだが、これがまた要領がいいのか、それともただ単にできたものの質の悪さを自覚していないのか、何とか片づいてしまうので、「次こそは計画を立ててしっかりやるぞ」などと思いつつも、基本的には「次も何とかなるでしょ」と考える性分が災いし、大慌てした経験がまったく次の機会に活かされないで今日まで生きてきている。

結局のところは、尻に火がつかないと集中できないという、単なる集中力の欠如が原因なのだろうが、となると、今やらなくてもいいことに没頭している時の集中力の強さはうまく説明がつかなくなる。課せられたことをするのが嫌いで、自ら課したことをするのが好きである、という考え方もできるかも知れないが、小学生の時の夏休みの宿題ならいざしらず、社会人になってから自ら計画を立てた研究が遅々として進まないさまを見ると、これまた自主性の問題でもなさそうである。

そのような私に、「24時間にあと3時間足してあげる」と言われても、ろくなことに使わないのは目に見えているのだが、それではどこに足そうかということになると、私の場合はもう答えが決まっている。午前3時をもう三度繰り返すのだ。日付の上では新しい日になっているが、まだ前日の余韻



をまとった午前3時。2時だと単なる夜中で、4時だともう早朝という感じだが、3時はその中間にある特別な時間のように思える。

“In the wee small hours of the morning” という曲がある。しばらくジュリー・マリガンのサックスの演奏しか知らなかったが、あとから買ったフランク・シナトラのベスト盤に入っていたので、それで歌詞を知るようになった。「世界中がぐっすり眠っているこの時間に想うのはあの子のこと」というシンプルな歌詞なのだが、あの子を想いつつ起きている時間がこの曲のタイトルになっている。日本語ではこういう時間の表現をあまり見かけないが、勝手に午前3時頃ではないかと想像している。

夜中と早朝のどちらにも属さない「間」の時間、目の前にある仕事を横目で眺め、それを気にしつつも、音楽を聞き、読書し、壮大な仕事の計画を練りあげている(ふりをしている)時間、傍目には無為に過ごしているように見える時間ほど私にとって甘美なものはない。このような時間を過ごしていると、自分は時間の使い方が

CONTENTS

- p. 2…秋は夜長
- p. 6…CAMPUS☆TOPICS
- p.20…学問のしおり
- p.21…国際交流トピックス
- p.29…2007年度大谷大学紫明祭
- p.32…Keiji☆Ban
- p.37…学生相談室から
- p.38…谷大エリア散策
- p.39…写真でふりかえる大谷大学今昔
- p.40…研究室だより
- p.41…学会だより
- p.42…出版物紹介
- p.43…大谷中学校・高等学校
九州大谷短期大学からのお知らせ
- p.44…SQUARE

表紙のことは

慎重に、慎重に!!
今までの笑顔も一転
不安気な視線と、真剣な目のバッティング

バックを支える手に注目
絶対こぼせない!
熱つ熱つをやきそばが入ったバックは
とてもじゃないがしっかり持てない
もしはみ出たら間違いなく火傷だ
せっかくのやきそばも台無しだ

紫明祭ではこのようなドラマが
いろいろな所で繰り広げられている

冬扇

詳しくは「夏炉冬扇」という。夏の炉や冬の扇のように役にたたぬことの意味に用いる。ここでは役にたつたない次元をこえて一筋の道に生きる精神をあらわす。

2007年11月5日発行
発行 大谷大学企画室
編集 大谷大学広報編集委員会
〒603-8143
京都市北区小山上総町 大谷大学企画室内
電話 (075) 411-8115
FAX (075) 411-8149

下手なのではなく、天才的に上手いのではないかとも思ってしまう。

この時間が好きな理由がもうひとつある。深夜は家中の電気製品の活動が最小限になり、電源に余計なノイズが乗らなくなるので、

音楽がよく聞こえる（はず）という説を信じているのである。ステレオのせいなのか、耳のせいなのか、昼間に聞くものとの違いを明言できないのが悲しいところだが、それでも、午前3時の“In the

wee small hours of the morning”は、たしかによく聞こえる。

（ふじえだ しん）
（宗教学・哲学 講師）



ココロの栄養補給

櫻井 智行

私が京都に住むようになってから10年を迎える。家族から離れて暮らす中で自分がこだわっていることがふたつある。ひとつは広い部屋に住むことである。広い部屋に住むというのは、幾つも部屋のある所に住んだり、ただ広い部屋に住むということではなく、一部屋でも食事、勉強、休憩といった棲み分けができ、1日の疲れを癒せるスペースとぐっすり眠るベッドが確保されているということである。もうひとつは、他の事で費用を削ってでも食事にはお金をかけることである。別に食事にお金をかけるというのは贅沢をするということではない。1日3食バランスよく栄養のあるものを、味わって食べるということである。

このふたつは私が思いついたことではない。以前通っていた大学で、精神保健福祉を学んでいた時、「狭い家に住んで、栄養をとるために食物を食べているから、精神の病にかかるのだ。」と指導教授に言われたのだ。それは、家が狭いということに問題があるのではなく、食事勉強も休憩も一カ所で行うことで、生活に切り替えのスイッチがなく、メリハリのない

生活になるということであろう。また、栄養をとるための食事とは、車が動くためにガソリンを補給するように、栄養を摂取するためだけに食事をするということではなく、食事とは生活の中でひとつの時間的ケジメをつけ、五感を働かせて食べるべきであるということであろう。生活にメリハリをつけ、五感を働かせて食事をするという事が脳内を活性化させて、精神状態を安定させる大きな役割を持つのである。

味わって食事をするためには、食材を美味しく調理することが重要である。9年間の京都暮らしの中で、和、洋、中いろんなレパートリーが増えた。美味しく料理し、レパートリーを増やすための近道は、他人のために料理をするということである。自分のために食事を作るというのも良いが、やはり誰かのために作る方が、美味しいものを食べてもらいたい、喜んでもらいたいという気持ちから、料理がいつそう美味しくなる。そして、人と一緒に食べることで、一人で食べる以上に心に栄養が満たされる。美味しいと言ってくれるのが嬉しくて、いつの頃からか、



これまでに作った手料理

他人に料理を作るのが楽しみになった。

今年の夏は猛暑続きで、動きも鈍り食欲も落ちた。しかし季節は秋。食欲の秋である。魚や動物は冬を越すために栄養を蓄え、その肉は脂がのり、美味しさを増す。野菜や穀物も新物が出回る。そんな食材を目にすると、久しぶりに他人に料理を作ろうという気持ちが大きくなる。

秋の夜長。気の置けない友人を招いて、手料理と美味しいお酒で身体と心の栄養補給でもしましょうか。

（さくらい ともゆき）
（修士課程 真宗学専攻 第1学年）



モーニング 鬼平 読もうよ

内田 美央

夜が長くなって、増えた3時間。その分、早寝早起きをして、朝の時間を増やしたい。

朝の時間は締切がある。仕事にいかなくてはいけない焦りが、朝の時間を有効に使うことにつながり、その結果、朝だけでなく夜も自分の時間が増える。充実したプライベートの時間は、仕事面での能率アップのビタミン剤になる。また、生活を“朝型”にすると、すっきりした頭と気分で仕事をできるようになり、仕事がスムーズに進む。“朝型”の生活は、1日をよりよく過ごしている実感を与えるのだ。

時間は、ただ増えても意味がなく、使い方と組み立てようによって生きてくる。しかし、そう分かっただけでは、なかなか無駄のない過ごし方ができない。

「読書をして勉強したい」というぼんやりとした想いは、いつも日常にかき消されている。だからこそ、有効に使える朝に時間があるなら、読書にあてたい。

そして、池波正太郎の『鬼平犯科帳』を読み進めたい。鬼平こと、火付盗賊改方長官の長谷川平蔵は、放蕩時代を経て培った情報網を使い、迅速で潔い判断で悪を捕らえ

つつ、さりげなく弱者への慈悲、気配りをみせる。

今春、私の職場のチームに、また新しい後輩を迎えた。ふと周りを見渡すと後輩ばかりで、自分がこのチームで最も長い所属歴となっていた。必然的にリーダーシップを発揮しないとイケない状況になった。それと共に、仕事のウェイトが、担当している仕事だけではなく、人を動かしてチームの仕事を進めていくことに向きはじめた。そんな私にとって、鬼平は、めざしたい憧れの上司像なのである。鬼平は、厳しくて優しい。

また、この本の中には、季節のうつろい、ごはんの描写、人の心の揺らぎなどが描きだされている。そのさまざまな人生の有様に興味をそそられ、引き込まれていく。いろいろな人生を知りたい。そのすべてが一度きりで美しい。

学生時代、建築を学んだ。建築は面白くて好きだ。それでも仕事として、建物を造ることより、人と接することを選んだ。建築を考える時、その中にいる人がどのように使うのか、感じるのかを考えていたら、入れ物ではなくて中身に興味があることに気づいた。

そんな自分が、大谷大学で過ご



学内改修工事にて

す人たちにできることを、日々考えて探していたところ、学内改修工事に関わる事ができました。着工前から完成まで、いろいろな姿の現場をみてきたが、完成後、人が入った状態が一番活き活きしている。どんな仕上げの彩りよりも、効果的である。自分にできることを考えて、実行して、自分の居場所を確認して・・・また今、自分にできることを模索している。鬼平に限らず、読書は、その答えに逢うための手がかりになるかもしれない。

できることからやっていきたい、たとえ1日24時間のままだとしても・・・。

(うちだ みお)
総務課 職員)

人事

主事の交代

[真宗総合研究所主事]
松川 節
(前真宗総合研究所主事 廣瀬 幸市)
2007年10月1日付

退職

依願退職
[教育職員]
片岡 裕 (教授・文学部)
廣瀬 幸市 (准教授・文学部)
[事務系嘱託]
佐野 千恵 (学生支援部)
戸田 佳世 (総務部)
中出 美保 (校友センター)
本多 由佳 (入学センター)
2007年9月30日付 (各通)

新規採用



事務系嘱託
(総務部)
浅野 千尋
(あさの ちひろ)



事務系嘱託
(教育研究支援部)
大伴 博子
(おおとも ひろこ)



事務系嘱託
(入学センター)
上原 亜貴子
(うえはら あきこ)



事務系嘱託
(校友センター)
高橋 由佳
(たかはし ゆか)

2007年10月1日付 (各通)

文学部「史学科」が「歴史学科」に名称変更されます

2008年4月より文学部「史学科」が「歴史学科」に名称変更されます。また歴史学科は、日本史コース、東洋史コース、歴史ミュージアム

アムコース、交流アジアコースの4コースに再編成されます。あわせて、入学定員が30名増員され、100名となります。それに伴い、文

学部の真宗学科、仏教学科、短期大学部の文化学科の入学定員が減員されます。

2008年度入学者

学科	歴史学科
コース	日本史 東洋史 歴史ミュージアム 交流アジア
入学定員	100名



2007年度の入学者

学科	史学科
コース	国史学 日本仏教史学 東洋史学 東洋仏教史学
入学定員	70名

2008年度の入学定員

学部	学科	入学定員
文学部	真宗学科	70名
	仏教学科	60名
	哲学科	70名
	社会学科	150名
	歴史学科	100名
	文学科	70名
	国際文化学科	100名
	人文情報学科	100名
文学部合計		720名
短期大学部	仏教科	50名
	文化学科	50名
	幼児教育保育科	100名
	短期大学部合計	200名



2007年度の入学定員

学部	学科	入学定員	
文学部	真宗学科	80名	
	仏教学科	70名	
	哲学科	70名	
	社会学科	150名	
	史学科	70名	
	文学科	70名	
	国際文化学科	100名	
	人文情報学科	100名	
	文学部合計		710名
	短期大学部	仏教科	50名
文化学科		70名	
幼児教育保育科		100名	
短期大学部合計		220名	

本学元教授が紺綬褒章を受章

本学短期大学部教授として教鞭を執っておられました高橋正隆さん（1953年学部卒）が、紺綬褒章を受章され、8月1日(水)、滋賀県庁で伝達式がありました。紺綬褒章とは、公益のために多額の私財を寄付した功績ある人に贈られるもので、この度の授章は、日本仏教史で著名な経典などの美術工芸品27点を県に寄贈したことにより

今回の寄贈品は、平安時代の泉

福寺焼経や平安末期から奈良の興福寺で出版された春日版の原装本の経典をはじめ、文化財修理や復元品制作の歴史を知るうえで貴重な桂離宮の唐紙見本や天平筆などです。大津市打出浜の県立琵琶湖文化館で保管され、展示や研究に活用される予定です。

なお、高橋さんは2005年11月に「第30回滋賀県文化賞」を受賞（『大谷大学広報』No.166号に掲載）され、2006年11月には「平成

18年度地域文化功労者文部科学大臣表彰」を受賞（『大谷大学広報』No.170号に掲載）されています。

（企画室）



高橋正隆氏

GLOBAL SQUAREイベント実施

◎シネマ上映会

6月18日(月)と7月11日(水)にシネマ上映会を開催しました。第1回目の6月はディディエ・ヴェステル教授の解説でフランス映画「八日目」を、第2回目は廣川智貴講師の解説でドイツ映画「グッバイ・レーニン！」を上映しました。上映に先立ち行われた解説では、映画の時代背景や登場人物の人間関係が分かりやすく説明されました。参加した学生は先生の解説を受け、より深く映画が理解できたようで、感動も一人だったようです。

◎コーヒーアワー

7月18日(水)にコーヒーアワーを開催しました。コーヒーアワーとは、留学生と日本人学生がお茶を飲みながら気軽に話しあい、交流を深めることができる時間です。今回は、「世界のVACATION」をテーマに、8名の参加者が和やか

な雰囲気、出身地の休暇の過ごし方やお勧め観光スポットを紹介しました。中国東北師範大学からの交換留学生のWANG JIALU（王佳璐）さんは、お正月に中国東北地方で踊るヤンコ踊りを、照れながらも披露してくれました。



コーヒーアワーの様子

◎お料理教室

8月6日(月)に夏休み企画としてお料理教室を実施しました。中国からの留学生が水餃子と麻婆豆腐を、韓国からの留学生がチヂミとトッポキを教えてくれ、日本の料理紹介としてお好み焼きを作りま

した。特別メニューとしてタイカレーも登場し、盛りだくさんのメニューとなりました。参加した学生は、水餃子の皮の硬さを調整するための水加減に苦労したり、突如漂う香辛料の香りに驚いたりしながらも、みんなで楽しみながら、各国の料理に取り組んでいました。最後には、できあがった料理を囲み、参加者全員でお腹いっぱいおいしく食べ、お料理教室を締めくくりました。

（GLOBAL SQUARE）



料理を囲んで記念撮影

オープンキャンパス開催

受験生の方々に本学を知っていただくためのオープンキャンパスを6月23日(土)、7月16日(月祝)、8月3日(金)・4日(土)・5日(日)、9月22日(土)に開催しました。

今年度は開催日ごとに特色を持

たせ、6月は“キャンパスを自由に歩こう！”と題し、各施設を隅々まで見学していただけるようにスタンプラリーを実施しました。7月は「LIVE!! 日常の谷大を見てみよう！」として、授業を行っ

ている日常の大学を見学してもらいました。8月は“1日谷大生を体験してみよう！”と題し、1日22コマの模擬授業を実施しました。参加者各自で1日の時間割を組んでもらい、大学生気分を味わって

いただけるものになりました。9月は“たくさん入試情報をつかもう！”と題し、公募制推薦入試や一般入試の対策講座を開催し、入試の特徴やポイントを講義しました。各日ともたくさん受験生や保護者の方にご参加いただき、大盛況のうちに終わりました。また当日の運営にあたっては、

多くのボランティア学生スタッフにご協力いただきました。強い陽射しのなか、笑顔で対応していただき、参加者からも大好評でした。来年度も多くの在学生在学生スタッフとしてご協力いただきたく思いますので、よろしく願いいたします。(入学センター)



模擬授業の様子

東國大慶州キャンパス短期研修団来学

6月26日(火)～29日(金)まで、韓国の学術交流協定校である東國大慶州キャンパスの短期研修団29名を受け入れました。

到着初日には、本学の学生が研修団を響流館で出迎え、グループに分かれて図書館や博物館、総合研究室を案内しました。両校の学生たちは、最初は戸惑った様子もありましたが、その後行われた歓迎交流会での交流ゲームや懇親会を通して徐々に打ち解け、宿泊先となった湖西キャンパスセミナー

ハウスでは深夜まで語りあっていました。

2日目には、本学の学生も同行し、早朝の延暦寺をはじめ、金閣寺や東本願寺など京都のお寺を中心に市内見学をしたあと、琵琶湖を見渡すことのできる湖西キャンパスセミナーハウスのテラスでバーベキューを楽しみました。そして、3日目には奈良の東大寺と大阪城や心斎橋を見学しました。

3泊4日と限られた時間ではありましたが、両校の学生の友情は

深められたようです。別れの際には涙を浮かべる学生もあり、メールアドレスを交換しながら今後の交流を約束していました。

(GLOBAL SQUARE)



全員で記念撮影

「大谷幼稚園探検隊」本学訪問

6月28日(木)、大谷幼稚園の年長組81名の子どもたちが本学を訪れました。「大谷幼稚園探検隊」と称するこの行事は、大谷幼稚園が本学の付属園になった1994年から毎年、幼児教育科(現 幼児教育保育科)と幼稚園との交流の一環として行われているものです。

午前中は、幼児教育保育科の学生と子どもたちがグループを組んで大学内を探検しました。情報処理室ではパソコンでのお絵かき、音楽実習室ではうたや手遊び、メ

ディアホールではスタンプラリー、保育実習室ではおもちゃ遊びなど、各ポイントにおいてさまざまな体験をし、また、エレベーターに乗ったり構内を駆けめぐったりと、「探検」気分を味わってもらいました。午後からは体育館アリーナで、玉入れ・サッカー・輪投げ・マット・跳び箱など運動遊びを楽しみ、広い体育館いっぱい子どもたちの歓声が響きわたりました。

プレゼントの手作りおもちゃやメダルを手にした子どもたちの笑

顔に、学生たちもとてもさわやかな気分を味わうことができた1日となりました。次は12月の幼教フェスティバルでお目にかかれることを楽しみにしています。

(幼児教育保育科)



運動遊びの様子

文藝学会公開講演会開催

毎年、7月上旬に国文学・中国文学分野の教員が協力して文藝学会公開講演会を開催しています。

今年は7月3日(火)、1号館1213

教室において実施いたしました。

学外から、同志社女子大学の安森敏隆特任教授をお迎えしました。先生は「女歌の近代と現代—与謝

野晶子から俵万智まで」という講題で、まず「和歌から短歌へ」について説明され、次に「1900年の日本」について論じ、最後に「与

謝野晶子から俵万智まで」について具体的に歌を紹介しつつ、熱心にご講演いただきました。

学内からは、本学中国文学コースの李青准教授が「オリンピックを控えた北京の光と翳り」というテーマで、昨年度首都師範大学に1年間研修されて感じられたこと、

特に最近の北京の事情について、興味深くお話をしてくださいました。

教員・学生、近隣の方々などが教室に数多く参集し、両先生の講演を最後まで熱心に聴講し、大変に充実した講演会となりました。

(石橋 義秀)



安森敏隆氏

2007年度 第1回 “人権問題を共に考えよう” 全学学習会の開催

去る、7月4日(水)、今年度第1回“人権問題を共に考えよう”全学学習会が開催されました(主催:人権センター、会場:講堂)。講師に、作家・エッセイストである田口ランディさんをお迎えし「寄る辺なき時代の希望」という講題でお話いただきました。

田口さんは、エリザベス=キューブラーロスの生き方に関心を持ち、その取材のために訪れたアウシュビッツ強制収容所での衝撃的な体験、また、広島、水俣などの現地取材を通して感じたありのま

まの思いを一人ひとりに話しかけるように語られました。そして、自分の中にある差別する心と向き合いながら、人権問題をどのように捉えていくかという視点で話を展開され、「共に考えていきたい」という田口さんの言葉を受けて、質疑応答も活発に行われました。

参加者は175名。この学習会は、人権教育推進委員会の第3部会(障害者差別問題部会)が中心となり、第4部会(性差別問題部会)と共に準備・運営を担当して開催されました。なお、今回の講演の

内容は『人権センター叢書』vol.6にまとめられ、後日発刊を予定しております。

(人権センター)



田口ランディ氏

宗教学会「大拙忌記念」公開講演会開催

去る7月11日(水)、大谷大学宗教学会主催の「大拙忌記念」公開講演会がメディアホールにおいて神戸女学院大学の内田樹教授をお迎えして開催されました。「『中華なき辺境』の宗教性」と題された講演を、学内外からの150名あまりの聴衆は文字通りかたずをのんで拝聴しました。

この講演について内田先生は、ご自身のブログで次のように述べておられます。

「華夷秩序における東夷であるところの日本列島は中華に対する相対的辺境である。そして、浄土のあるべき「西方」は地理的にもわれわれの欲望の虚の中心であり、われわれの列島を過去1700年余に

わたって冊封してきた宗主国の方位そのものである。日本人の浄土信仰のうちに華夷秩序のコスモロジーが影響していないということはありえない。とりあえず私はそう思っている。」

このような新鮮な切り口の「東洋的な見方」に、現代の宗教、そして世界を考える多くのヒントをいただいた刺激的な講演でした。この記録は、来春刊行予定の『宗教学会報』第16号に掲載予定ですが、本学ホームページからも講演の録画をご覧ください。

なお、内田先生のブログと本学ホームページは右記のURLからご覧いただけます。

内田先生のブログ

<http://blog.tatsuru.com/>

※ブログ検索で、日本的靈性と華夷秩序のコスモロジーと入力してください

本学ホームページ

<http://web.otani.ac.jp/streaming/>

(門脇 健)



内田樹氏

留学生文化交流会開催

2007年度第1回留学生文化交流会を7月14日(土)に開催し、外国人留学生5名を含む、20名の学生が参加しました。

今回は2部構成で、第1部は、西陣織会館(京都市上京区)にて手織りを体験しました。はじめに西陣織会館の方から西陣織の織り方についてご指導いただき、その後、実際に手織台を使って、各自がテーブルセンター(織巾約20cm、長さ約30cm)を織りました。日本の伝統文化である手織りを体験するのは初めてという参加者がほと

んどであり、大変有意義なものとなりました。

第2部は、仁和寺(京都市右京区)に移動し、昼食後、境内を散策しました。留学生と日本人学生と一緒に境内を巡る姿も見られ、国文学を専攻している留学生からは「一度ぜひ訪れたいと思っていたので参加してよかった」との声もありました。

当日はあいにく台風が接近し、一時は開催も危ぶまれましたが、無事予定どおり行うことができました。短い時間でしたが、この文

化交流会で留学生と日本人学生が共に新たな体験などを通じて、親睦を深めることができました。今後も留学生文化交流会の開催を予定しています。ぜひご参加ください。(学生課)



手織り体験の様子

仰木の里子どもフェスタへの協力

7月16日(月・祝)、大津市仰木の里市民センターにて、第9回「仰木の里子どもフェスタ」が開催されました。このイベントは、子どもたちの「生きる力」を育む環境を充実させるために、家庭・学校・地域が連携し、子どもたちの教育支援を行うものです。

本学は「仰木の里子どもフェスタ」の体験活動に協力しており、箏曲部有志が琴と三味線の演奏会と体験実習を行いました。当日は、60名ほどの子どもたちと保護者を前に演奏を披露した後、琴と三味

線の歴史や構造について説明を行い、実際に楽器にふれて簡単な演奏体験をしてもらいました。めったに見ることのない楽器にふれられたことは子どもたちにも良い経験になりました。

箏曲部の木下香さん(史学科第4学年)は、「このイベントには2005年から毎年参加しています。今年は部員8名で出演しました。今回は子ども向けの曲と、保護者の方も喜ぶような曲を交えてみました。定期演奏会とは聴いてくれる層が違い、また距離も近いので

緊張しますが、今後の演奏会やボランティアの参考にもなります。」と話してくれました。

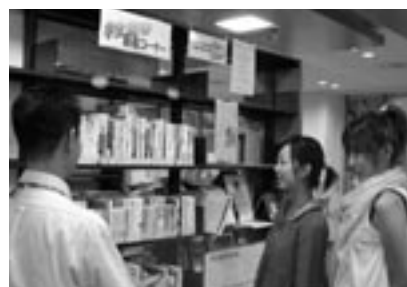
(教育研究支援課)



琴の演奏体験の様子

学生選書プロジェクト書店ツアー開催!

図書館で人気の高いコーナーのひとつに学生選書のコーナーがあります。これは「小説などの楽しみで読むような本が本学図書館に



学生選書コーナー

は少ない」という学生の声によって2年前にスタートしたプロジェクトです。有志の学生が定期的にミーティングを行い、購入してほしい本やDVD、またリクエスト用紙に寄せられた要望などをもとに、教育後援会からいただいた予算を活用して図書資料を購入し配架までを担当します。

その学生選書プロジェクトの企画の一環として、7月18日(水)、学生が書店で直接図書を購入する

「書店ツアー」を、河原町通にある大型書店・ジュンク堂書店京都BAL店で開催しました。前期定期試験の直前であったにもかかわらず



書店ツアーに参加したメンバー

ず10名の学生がこのツアーに参加し、2人1組でチームを組み、各チーム3万円以内で本を購入しました。新刊書や、友人・後輩にも読んで欲しい本、友人から要望のあった本など、それぞれの思いを込めて2時間で約100冊の本を選

びました。

ツアーに参加した学生からは、「直接現物を手にとって見る事ができるから選び易い」「みんなで大量の本を購入する経験なんて初めてなのですごく楽しい」などという声が聞かれました。

今回のツアーで選んだ本は、図書館1階閲覧室の学生選書の新着コーナーに配架されています。ぜひ来館し手にとってみてください。また、次回の書店ツアーも計画中です。次はあなたも参加しませんか？ (図書・博物館課)

「暁天講座」開講

去る7月24日(火)～26日(木)に、2007年度「暁天講座」が開講されました。各日、参加者は約250名にのぼり、近隣住民をはじめ多くの市民の方々にもご参加いただきました。

「暁天講座」は夏の「安居」期間中のさわやかな早朝に、「安居」講師を迎えて行っているものです。講座期間中は講演終了後、学内食

堂にて朝粥の接待があります。参加者の中には毎年楽しみにされている方もおられます。

なお、各講師・講題は以下の通りでした。

7月24日 佐賀枝夏文(本学教授)
「こころの取扱い説明書」

7月25日 尾畑文正(同朋大学教授)
「世のいのりにこころいれて」

7月26日 安富信哉(本学教授)
「無縁の大悲」 (総務課)



第2日目講師 尾畑文正氏

フィリップス・マールブルク大学と学術交流協定を締結

8月8日(水)、ドイツのフィリップス・マールブルク大学と教員・学生の交流や共同研究等の内容を盛り込んだ学術交流協定を締結しました。

フィリップス・マールブルク大学とは、1992年に初めて共同研究会を開催し、1995年に当時マールブルク大学の教授であったマイケル・パイ氏を大学院特別セミナー

の客員教授として迎えたことをきっかけに本格的な交流が始まりました。そして今日に至るまで、マールブルク大学にて開催されたルートolf・オットー・シンポジウムへの本学教員の参加や仏教とキリスト教をテーマとした研究会の共同開催や図書出版など、活発な交流を重ねています。

今回の学術交流協定締結は、こ

れらの実績を踏まえ、現在、本学客員教授であるマイケル・パイ氏のご尽力により実現したものです。

学術交流協定が正式に締結されたことで、国際的な視野にたった宗教学研究のさらなる推進に期待が寄せられます。

(教育研究支援課)

紫竹学区地藏盆に児童文化研究会が協力

8月19日(日)、紫竹学区の地藏盆が開催され、プログラムのひとつとして児童文化研究会が「ちっぼけマリウス」と題した手作りの紙芝居を上演しました。今回の地藏盆での紙芝居は、紫竹学区の町内会が京都市北区役所の地域交流推進事業「北区 地域と大学つながるネット」を通じて本学学生へ協力依頼をされたものです。紙芝居に続いて、集まった子どもたちと

ゲームをして楽しい時間を過ごしました。

今回の地藏盆に協力参加したことについて、メンバーのひとり大森好恵さん(社会学科第3学年)は「初めて地藏盆に参加しましたが、とても貴重な体験ができたと思います。プログラムの他にも、スイカ割りなどをして一日中子どもたちと楽しみました。子どもたちにも、参加した部員にも、いい

思い出になったと思います。」と感想を語ってくれました。

(企画室)



ゲームの説明を聞く子どもたち

大学コンソーシアム京都からインターンシップ生の受け入れ

8月27日(月)～9月7日(金)、大学コンソーシアム京都からインターンシップ生の受け入れを行いました。今年度は京都外国語大学から福山遥さん(外国語学部英米語学科第3学年)を実習生として受け入れました。福山さんは教育機関に興味をもたれて、高等教育機関での実習を希望されました。本学での実習としては、企画室、進路就職センター、図書・博物館課、



「Mini Topics!」コーナーの設営

教育研究支援課、総務課での業務を体験していただきました。日常的な事務作業のほかに、企画室では広報業務、進路就職センターでは求人ファイル更新作業、総務課では大学で購入した備品ラベルの点検・貼付、図書・博物館課では京都外国語大学の図書館利用案内のパンフレットの分析や、「Mini Topics!」コーナーの企画・設営、教育研究支援部ではミーティングに参加するなどの幅広い業務に携わっていただきました。

今回のインターンシップを終えて、福山さんは「実習では多くの職員の方々にお世話になり、数々の大学職員の業務を体験することができました。実習前は、「仕事」というものはただキツイだけのものだと思っていた、「働く」とは

どういふことなのかを知るために、インターンシップ実習に臨みました。仕事をするうえで責任を負うことも多いですが、仕事を終えるごとに達成感があり、それが仕事へのやりがいに繋がるということに気付きました。実習での経験を活かして、これからの学生生活を充実させていきたいです。」と感想を語っていただきました。

(企画室)



備品ラベルの貼付の様子

中学生チャレンジ体験の実施

9月3日(月)～7日(金)、京都市立衣笠中学校の生徒2名が「生き方探求・チャレンジ体験」として、本学を訪れました。この体験学習は、《21世紀の社会を担う中学生に、それぞれの興味や関心に応じた多彩な職場体験の機会を提供し、自らの在り方と生き方を考えるきっかけを生み出す》ということを目的にしています。毎年、中学校近隣の数多くの事業所が協力しているものです。

本学では、2年生の坂本悠希君と前野友彬君に、企画室と図書館において大学職員の仕事を体験していただきました。5日間の職業体験の中で、企画室ではプレスリリースやデータの入力作業、図書

館では本の修繕や配架ラベルのバーコードの読み取り、ラベルの貼付作業などを行いました。

2人はもともと、本が好きで、図書館業務ができる大学での体験を希望したそうです。「大学の図書館は広くて設備が良い」、「古い本が多くて驚いた」など、中学校の図書館との違いについて感想を語ってくれました。また、「体験前に抱いていたイメージよりも仕事の内容が複雑で重要なことが多い」と、仕事をするには責任が伴うという大切なことを実感できたようです。

2人は「学校で机に向かう授業よりも楽しい」と、いきいきとした様子で互いに協力し合いながら

作業を行っていました。

(インターンシップ実習生 福山遥)



配架ラベルの貼付作業



配架ラベルのバーコードの読み取りの様子

学内食堂リフレッシュ

この夏、学内食堂をリフレッシュし、9月11日(火)より営業を再開しました。

今回は「明るさ」をテーマに改修工事を行いました。

①床・パーテーション改修

木目調の床材に張り替えました。また、パーテーションも下部を木目調に、上部は白ですっきりまとめました。

これにより落ち着いた雰囲気の中にも明るさを確保することがで

きました。

②天井、柱の清掃・塗装

照明器具の清掃、壁・柱などの一部を白く塗りました。

③オレンジのワンポイント

出入り口の看板、食堂内のサインをオレンジに統一することにより明るさ、温かみを出しました。

その他、南側、南西（自動販売機コーナー横）の出入り口を自動ドアに、北側（返却コーナー隣）の出入り口にスロープを設置する

などバリアフリー化も実施しました。（総務課）



新たにできたメニューサイン

学校(教職)のインターンシップ3を今年度より実施

今年度よりインターンシップが正規の授業となり、大学コンソーシアム京都によるインターンシップ1には17名、大谷大学独自のインターンシップ2には18名、学校(教職)のインターンシップ3には5名の学生が参加しました。この授業は社会人としてのマナーやリスクマネジメントなどを事前講義として学び、夏期休暇期間中に学校や企業で「働く」ことを実際に経験する実践体験型プログラムです。

企業でのインターンシップは以前より実施していましたが、学校(教職)は今年度からの開講で、事前講義は上述の内容のほかに、現任教員を講師に招き学校現場の取り組みについても学びました。京都市立の中学校と高等学校での研修は、教科指導の教育実習とは異なり、育成学級での指導補助やパワーポイントを使っての資料作成

の補助などを行いました。

インターンシップ3の研修終了後、10月10日(水)に教職希望者の一般聴講参加を認める形で事後講義を行い、研修生全員が自らの体験を発表しました。この発表では、自分が体験できなかった研修内容を共有するとともに、教師となるために今できること、今後取り組むべきことを確認し、教師になりたいという思いを強くしました。この体験が将来に生かされることを期待します。

〈インターンシップ3に参加した研修生の声〉

文学科第4学年 梶 絵吏子

9月4日(火)~10日(月)、京都市立旭丘中学校において、育成学級で指導補助をしました。今回のインターンシップの参加について、梶さんは「今まで、特別支援教育については文面でしか学んでいなかったのですが、実際の現場に入ること、その学びが具体化され、さ

らに関心を持つことができました。また、教育実習に行った大阪府の学校との体制の違いを見ることもでき、とてもよい勉強になりました。この研修を通し、考え方が変わったり、新たな関心が生まれたり、さまざまなことを学びました。これからこの経験を生かし、教職につけるよう日々努力していくつもりです」と感想を述べられました。

(進路就職センター)



指導補助をする梶絵吏子さん

日本民俗学会第59回年會を本学で開催

10月6日(土)・7日(日)、大谷大学を会場として日本民俗学会第59回年會が開催されました。日本民俗学会は、民俗学の研究とその普及および会員相互の連絡を図ることを目的として、1949年に発足した、民俗学研究者の全国的な学会です。本学会の学術大会は「年會」と称して毎年行われています。

6日には、大谷大学が位置する小山郷に伝承される念仏芸能「六斎念仏」が実演されたほか、大谷

大学名誉教授故五来重氏が提唱した「仏教と民俗」をテーマに、豊島修教授の基調講演「仏教と民俗の交渉」に加え、「巡り」・「地獄」・「念仏」をキーワードとするパネル報告を中心とした公開シンポジウムが行われました。

7日は、約150名の研究者による研究発表や小シンポジウムが、12の部会場で行われ活発な議論が展開されました。

両日を通じて、延べ1,000名を超

える参加者をお迎えし、総勢74名の本学学生・大学院生有志のスタッフによる尽力もあって、大変な盛会となりました。

(任期制助教 加藤 基樹)



基調講演の様子

本学学生が第5回京都学生祭典「京炎みこし」のプロジェクトリーダーとして参加

去る10月6日(土)・7日(日)に「第5回京都学生祭典」(主催:京都学生祭典実行委員会)が開催されました。

京都学生祭典は、企画から運営まですべてを大学生がプロデュースするお祭りです。第5回となる今回は「新たな京都の伝統祭へ」をコンセプトに、他にはない地域に根ざした祭を創りあげるべく、多くの学生が活動を行ってきました。

なかでも今回の祭典の象徴として、オリジナルの創作みこし「京炎みこし」が企画され、そのプロジェクトリーダーを本学真宗学科

第2学年の本田淳一さんが担当しました。

今回の「京炎みこし」プロジェクトについて本田さんは「この「京炎みこし」は今年のコンセプトにもあるように、京都学生祭典を「伝統祭」へ近づけるうえで、重要な役割を担うものでした。それに加え前例のない初年度ということもあり、企画、制作ともに苦戦の連続でした。しかし、それらを乗り越えて本祭で「京炎みこし」が無事成功に終わった時、私は嬉しくて涙が止まりませんでした。今回「京炎みこし」にリーダーと

して関わることができ、よい経験になりました。ご支援いただいた関係者の方々には心からお礼を言いたいです。」と感想を述べられました。

(企画室)



「京炎みこし」の様子

GLOBAL SQUARE 学生スタッフ活動開始

GLOBAL SQUAREでは、イベントの企画・実施や留学生のサポートなどをするボランティアの学生スタッフを募集し、活動を開始しました。最初の活動として、9名の学生スタッフが、新たに大谷大学で学ぶ留学生のために「日本生活ガイドブック」を作成しました。この「日本生活ガイドブック」は、留学生に少しでも早く日本の生活や大谷大学に慣れてもらいたいとの思いから作られたもので、

大学構内の施設説明を中心に京都のお勧めスポットなどをイラストを交えて紹介しています。

学生スタッフは、9月28日(金)に中国からの新しい留学生3名を学内食堂で出迎え、このガイドブックを手渡しました。留学生は、学生スタッフの出迎えと日本生活ガイドブックを喜び、「このように迎えてもらえるとは思ってもみなかったもので、とても嬉しい。」と感激した様子でした。ガイドブッ

クを渡した後は、自己紹介をしながら学内食堂で昼食をいただきました。

(GLOBAL SQUARE)



日本生活ガイドブックを喜ぶ留学生

前期卒業式を挙行

9月28日(金)、2007年度前期卒業証書・学位記授与式が講堂において挙行されました。来賓、父母兄姉、教職員をはじめ関係者の臨席のもと課程博士1名、修士課程1名に学位記が授与され、文学部34名、短期大学部5名に卒業証書・学位記が授与されました。引き続き木村宣彰学長より告辞、真宗大谷学園常務理事の里雄康意氏より

祝辞が述べられました。

式典終了後、多目的ホールにおいて卒業と同窓会への入会を祝って、大学、同窓会共催の「大谷大学卒業・修了並びに同窓会新入会員歓迎祝賀会」が開催され、卒業生、修了生、ご父母兄姉並びに教職員が一堂に会し、和やかなひとときを過ごしました。

(総務課)



卒業証書・学位記授与式の様子

課程博士の学位を授与

本学では、博士後期課程修了者の黄止琬さん(社会学専攻)に博士(文学)の学位記を授与しました。黄さんは昨年3月末に本学大学院博士後期課程を満期退学し、現在は母国である韓国の大学で日本語教師として活躍されています。

これまで本学では課程博士論文を提出できるのは年1回(9月末

締切)でしたが、 Semester制に対応するため、昨年度より年2回(9月末・3月末締切)提出できるようになりました。黄さんから本年3月末に提出された学位請求論文の審査が終了し、去る9月28日(金)に学位を取得されました。

(教務部)



黄止琬さん

「全国父母兄姉懇談会」開催

大谷大学教育後援会では、在学生の父母兄姉を対象に、毎年全国各地の数都市を会場に「地区父母兄姉懇談会」を開催しています。

今年度は名古屋、札幌、旭川の3会場で既に開催し、今後12月8日(土)に「松山市」で、12月9日(日)には「岡山市」をそれぞれ会場に実施を予定しています。

それらの地区懇談会に加えて、去る9月29日(土)、全国の在学生父母兄姉を対象にした「全国父母兄姉懇談会」を、本学を会場に開催しました。当日は全国から約230名のご父母兄姉をお迎えしました。

第I部全体会の開会挨拶では、

頼尊聖教育後援会会長から教育後援会の大学への関りや、その役割の重要性について、また木村宣彰学長からは、大谷大学の存立の意義、並びに教育方針の基本姿勢について述べられました。引き続き、教育・研究、学生生活、並びに進路・就職支援等について大学の現況報告がなされ、本学に対するご理解を一層深めていただきました。全体会終了後、個別相談会ならびに響流館を中心とした施設見学・博物館の観覧等がありました。個別相談会では、学科・成績・進級、進路・就職、海外留学、学生生活、よろず相談の各コーナーが設けら

れ、父母兄姉から熱心な相談が寄せられました。

また、第II部の懇親会は会場を京都ホテルオークラに移し、約80名の教職員出席のもと、ご父母兄姉との和やかな懇談の場として、有意義なひとときを過ごしました。

(校友センター)



個別相談の様子

佛光大学と学術交流協定を締結

10月2日(火)、木村学長が台湾の佛光大学を訪問し、翁政義佛光大学学長と両校の交流について協議のうえ学術交流協定を締結しました。佛光大学は、人間仏教の精神に基づく人格教育を基本理念に掲げ仏教教育に力を注いでおり、2007年には台湾で初めて仏教学部の設置が認可された総合大学です。大学院を併設しており、4学部20学科に約2,100名の学生が学んでいます。

佛光大学の副理事としてご活躍の慈恵法師は、1973年に本学修士

課程を修了され、現在、佛光大学の宗教教育部門の最高責任者として力を尽くしておられます。慈恵法師は調印式の挨拶の中で、母校である大谷大学との交流が始まることを心から喜び、人間はどのようなものか、人間の生きる意味を考えながら交流をしていきたいと、述べられました。また、宗教学科助理教授の奥村浩基博士は、本学の卒業生で2003年3月に博士の学位を取得され、今般の学術交流協定の締結にご尽力をいただきました。お二人とも本学の教育研究の

姿勢に強い信頼を寄せておられ、今後の活発な交流が期待されます。
(教育研究支援課)



学術交流協定を交わす翁政義学長(左)、慈恵法師(中央)と木村学長

タイ・マハ=チュラロンコン大学一行来学

タイのマハチュラロンコンラーチャウィッタヤライ大学のダマコーサージャー学長を代表とする視察団61名が、10月4日(木)午前、本学を訪問しました。

同大学は、仏教徒が国民の9割以上を占めるタイの中でも、仏教を学ぶ最高学府と言われる大学で、仏教、教育、人間、社会の4つの学部と大学院からなる学生数1万人の大学です。今回の訪問は、京都の仏教系大学の現代的な研究設備や研究方法の視察を目的とするもので、本学のほか、花園大学、佛教大学、龍谷大学を訪問されました。

本学とタイとの交流は100年以上にわたり、本学図書館には20世

紀初頭に当時のシャム国王から寄贈された三蔵(Tipitaka)や30冊の注釈書、東本願寺大谷光演師がタイで寄贈された貝葉パーリ經典などが所蔵されています。

響流館メディアホールでは、草野顕之文学部長、兵藤一夫真宗総合学術センター長をはじめ、タイを研究フィールドとする田辺繁治教授、高井康弘教授、清水洋平非常勤講師に参列いただき、交流会を催すとともに、これらの寄贈書の観覧の後、響流館内の施設見学を行いました。

挨拶に立たれたダマコーサージャー学長は、ご自身の師となるサティアン師が戦中に本学で学ばれたこと、その縁ある大学を訪問

できたことはこの上ない喜びであることを話されました。

視察団の一行は、施設見学の最後に立ち寄られた尋源館で、ダマコーサージャー学長を導師として勤行をされ、会場となった尋源講堂は荘厳な空気で満たされました。

(教育研究支援課)



ダマコーサージャー学長へ記念品を贈呈

紫明学区民親睦大運動会へのボランティア協力

10月7日(日)に開催された紫明学区民親睦大運動会に、本学から伴裕介さん(哲学科第4学年)、山崎圭子さん(哲学科第4学年)と、児童文化研究会の貞光健二さん(哲学科第3学年)、北後匡規さん(哲学科第3学年)、大森好恵さん(社会学科第3学年)、田中恵理さ

ん(文学科第2学年)の6名がボランティアとして大会運営に協力しました。

紫明学区では、毎年、紫明体育振興会の主催のもと、約40町内会が参加して大運動会が開催されており今年で55回目となります。近年では競技への参加者の多さに比



審判係として順位を伝える様子

べ、運営側の高齢化や人手不足により、競技の進行に負担が多くなっていることから本学学生への協力依頼がありました。

大運動会当日は、おもに競技の準備係や、審判係を務め、また、

綱引きやボール送り競走に参加して大会を盛り上げました。

今回、審判係として協力した貞光さんは「気温も高く暑かったですが、それに負けないくらい競技をしている皆さんも熱かったです。

自分たちも競技に参加できたことや、運動会終了後に皆さんから感謝されたことがとても嬉しかったです。」と感想を述べてくれました。
(企画室)

東國大學校と博物館交流協定を締結

今般、本学の学術交流協定校である韓国東國大學校博物館と本学博物館が学術交流活動の一環として10月1日(月)に交流協定を締結しました。

東國大學校博物館は1963年に開館された歴史ある博物館です。仏教総合博物館という特徴を堅持し、仏教関係の遺物や資料、美術資料を収集・保管・展示しています。また、仏教美術の調査・発掘には定評があり、研究活動成果を学会で発表すると同時に学生教育にも

活用しています。

本学の博物館開設は2003年ですが、それ以前は図書館で資料収集・展示の実績を積んでおり、その伝統においては東國大學校博物館と比肩するものと思われます。

両博物館は、その設立目的を共有できることから、展覧会の共同開催や作品の相互貸出、学芸員の交流など、今後さまざまな交流による成果が期待されます。10月24日(水)、本学の博物館主事・宮崎健司教授と学芸員・平野寿則講師が

東國大學校博物館を訪問し、最初の交流として、来年度、鄭于澤東國大學校博物館長に本学で記念講演をしていただくことが決まりました。
(教育研究支援課)



鄭于澤博物館長と会談の様子

博物館夏季企画展「仏教の歴史とアジアの文化Ⅶ

期間：2007年5月22日(火)

～2007年8月5日(日)

本企画展ではタンカ(「白傘蓋仏母像」など)12点、能海寛将来品(チベット文献)と寺本婉雅将来品(北京版チベット大蔵経)など23点を展示しました。会期中、6月16日(土)に三宅伸一郎本学講師によるギャラリートーク、6月30日(土)に種智院大学の北村太道名誉教授による講演会「チベット仏教美術の魅力」が開催されました。

また、期間中、博物館学芸員による解説ツアーを11回にわたり実施しました。

7月5日(木)より特別陳列「末永雅雄コレクション」を行い、「金銅製品断片(飾履か)」など31点を展示しました。この特別陳列にあわせて、7月14日(土)神戸山手大学の河上邦彦教授による講演会「末永考古学とは―末永先生の目ざした研究とその現状―」が開催されました。この特別陳列期間にも、

チベット 求法の旅人

学芸員による解説ツアーを4回実施しました。

(図書・博物館課)



北村太道氏

博物館秋季企画展「仏教の歴史とアジアの文化Ⅷ 久多の大般若経」

期間：2007年9月11日(火)

～2007年9月29日(土)

本学博物館では、2004年12月に京都市左京区久多の志古淵神社で保管されてきた『大般若波羅蜜多経』の寄託・調査依頼を受けました。その調査成果を公開するため本企画展を開催し、『大般若経』16

巻や、それらを入れていた経櫃・経皿などを展示しました。9月15日(土)に京都市文化財保護課の村上忠喜技師による「久多の宮座儀礼と芸能」と題した講演会と、9月22日(土)に宮崎健司本学教授・博物館主事によるギャラリートークが開催されました。



村上忠喜氏

また秋季企画展では、本学博物館学課程実習生による実習生展も同時に開催しました。本年は秋季企画展に関わって、久多の歴史と

文化を各班がそれぞれ異なる視点で学習し、「久多の歴史」「志古淵神社」「大般若経の信仰」と題して展示しました。実習生による各

コーナーの展示解説も実施し、好評をいただきました。

(図書・博物館課)

2007年度博物館特別展「法隆寺一切経と聖徳太子信仰」スタート

今年度の博物館特別展が10月9日(火)からはじまりました。特別展では、本館に約80巻所蔵する法隆寺一切経を中心に、兵庫県・中山寺所蔵の重要文化財「聖徳太子勝鬘経講讃坐像」や兵庫県・斑鳩寺所蔵の重要文化財「聖徳太子勝鬘経講讃像」など彫刻や絵画なども展示しています。関連行事として、10月13日(土)に本学の宮崎健司教授による講演「法隆寺一切経の形成」、11月3日(土・祝)に華頂短期

大学の田中嗣人教授による講演「聖徳太子信仰と法華経」が開催され、また、会期中に2回、宮崎教授によるギャラリートークも予定しています。会期は11月28日(水)までで、11月6日(火)より一部展示替えをします。なお、定期的に学生ガイドによる解説ツアーも行っています。詳細は博物館受付にてお問い合わせください。

(図書・博物館課)



宮崎健司教授が博士(文学)の学位を取得

このたび、本学の宮崎健司教授が、学位論文を提出され、博士(文学)の学位を取得されました。

授与式は、2007年10月10日(水)本学にて行われました。

◎宮崎健司教授

「日本古代の写経と社会」

(教務部)



授与式の様子

大学院特別セミナー公開講演会開かれる

10月12日(金)、響流館メディアホールにおいて大学院特別セミナー公開講演会が開かれました。講師はマールブルク大学福音主義神学部教授・本学客員教授であり、実践神学の研究が専門であるゲルハルト・M・マルティン教授でした。

マルティン教授による今年度の大学院特別セミナーは10月8日から19日まで2週間にわたって開講され、「西洋の様々な宗教の伝統における空間と時間の見方」をテーマに、講義と演習形式によって進められました。公開講演会は「宗教、あるいは方向づけ・呼び

かけ・救い」という講題で第1週の最後に行われ、特別セミナー全体を包括する内容となりました。マルティン教授の基本的な姿勢として、神学研究は単なる形而上学的な営みではなく、常に現実の中にあって考える学問である、ということが強調されました。さらに、「時間」と「空間」という枠組みから見た宗教の様々な類型について、またマルコの福音書におけるイエスの物語、A・カミュのシーシュポスの神話、そして禅の十牛図という三つの物語に共通したモチーフについて論を進めていく中

で、宗教のテキスト自体が示している救いと現実との不可分性が詳細に述べられました。

講演終了後はビッグバレーにてレセプションが開かれ、講師と聴講者とが親睦を深めました。

(特別セミナー担当者：藤枝真)



ゲルハルト・M・マルティン客員教授

開学記念式典並びに初代学長清沢満之謝徳法要を挙行

10月13日(土)、「開学記念式典並びに初代学長清沢満之謝徳法要」が挙行されました。10月13日を開学の日とするのは、近代的大学として出発した1901(明治34)年の開校式が挙行された日によります。

勤行、学長の挨拶に引き続き、

記念講演として前龍谷大学学長で龍谷大学名誉教授の神子上恵群氏より「心の時代の大学」の講題でご講演をいただきました。

(総務課)



神子上恵群氏

美濃部裕道さんが「秋田わか杉大会」で準優勝

10月13日(土)～15日(月)にかけて「第7回全国障害者スポーツ大会秋田わか杉大会」が開催されました。社会学科第2学年の美濃部裕道さんが、昨年度の「のじぎく兵庫大会」と2年連続で、本大会に出場しました。

14日に開催されたビーンバック



ビーンバック投げ競技の様子

投げ競技において、8m40cmの記録で準優勝(銀メダル)を獲得しました。また、もうひとつの出場競技、スラローム競技においては4位と健闘しました。

美濃部さんは、「のじぎく兵庫大会」の、2006年10月14日に開催されたビーンバック投げ競技では、大会新記録となる11m79cmで優勝しています。今回は秋田県という場所柄、寒さで思うように記録が伸びなかったそうです。ただし、今回の優勝者も記録更新には至らず、依然として美濃部さんが記録保持者であります。

スラローム競技においても、昨年度は3位(銅メダル)で、今回は惜しくもメダルを逃したことに美濃部さんは大変悔しい思いを抱き、来年度への意気込みを新たにしておられます。

(学生課)



表彰式にて(本人左端)

学問のしおり

此のところ『維摩経』の仏国品を読みながら、「浄土」について考えることが多い。この經典では、菩薩行としての浄土のありようが描かれており、大乘仏教の典型的な浄土観が示される。

人間が空過一空しく過ぎゆく人生を恐れ、人生を惜しむ生きものであるかぎり、「浄土」の意義も限りなく大きいとわたしには思われる。しかしながら現代という時代は、科学的な発想が浸透し、経済性が優先される世俗化した時代である。かつて人びとが抱いていた神話的・宗教的な豊かな心の世界は忘れ去られ、都市には非宗教的な空間が広がっている。今や「浄土」は人びとの意識からもっとも遠いテーマになってしまったようだ。現代という時代において、「浄土」が再びいきいきとしたイメージをともなって、人びとの心に甦ることはあるのだろうか。

現代の日本では、一般に「靈魂」の不滅と「輪廻転生」を説くのが仏教であるとする理解が広まっている。また浄土教には、死後に極楽浄土とい

う莊嚴された別世界に転生し、救われるという通俗的なイメージがある。日本人のこのような見方は、実は中国仏教の影響が大きいと思われる。

仏教が中国に伝来した当初、インドからもたらされた輪廻転生の教説は、中国の人びとに大きな驚きと疑念をもって迎えられた。やがて、それは中国固有の「天命」説の欠陥を補い、また「孝」の実践を可能ならしめる教説として、積極的に受容されることになる。ひとの死後に、靈魂が自らの業報にしたがって、三世にわたり六道を転生し続ける、というのが中国の人びとが受容した輪廻説であった。こうして中国の一般の人びとの間では、靈魂と三世の存在を認め、輪廻転生を説くのが仏教であるとする理解が定着することになる。

一方、仏教の専門家においては、輪廻説の理解について二面性が見られる。つまり、輪廻転生という神話的な概念をきわめて合理的に解釈しながらも、その一方で、六道輪廻の世界の存在を文字どおり信じているかのような表現が多く語られる



「浄土」教の可能性

山野 俊郎

のである。

例えば、隋代の天台大師智顛は、衆生の境涯を、下は地獄・餓鬼の世界から、上は菩薩・仏の世界まで十の段階（十界）に区分する。智顛によれば、この十界は、智慧の浅深によって自ずと顕現してくる人間の境涯を、象徴的に表現したものとして解釈される。たとえば、わたしの心が黒暗の深い無明に覆われているとすると、そのわたしに世界は「地獄界」と感じられ、わたしは「地獄」の住人と見なされる。その一方で、智顛には、輪廻の世界としての三世・六道の存在を、文字どおり信じていたかのような記述も見られる。たとえば、師慧思との出会いの感動を伝える、「ふたりは遠い過去世にインドの靈鷲山で共に法華経を聴いた間柄である」という言葉。あるいは、智顛の放生の記事にしるされる魚類の恩返しほうじょうの物語などに、そのような理解が窺われる。

同じような二面性が、たとえば親鸞の「浄土」の理解についても見られる。親鸞によれば、真の

浄土とは、あらゆる限定をこえた無相の「無量光明なる土」である。このような浄土についての知的な解釈とは別に、かれは書状などにおいて、年老いた自分（親鸞）が先だったなら、「浄土にてかならずかならず待ちまいらせそうろうべし」といい、「かならずかならず一ところ（一処）へまいいりあふべく候」と語る。ここには有相の浄土のありようが語られ、浄土についての言わば情的な理解が示されている。このような浄土についての言明は、人びとを真の浄土の理解に導くための、単なる方便なのであろうか。あるいは、浄土に必然的な要素として語られているのであろうか。

そのような課題もふくめ、現代における「浄土」教の可能性について、わたしは『維摩経』（仏国品）の記述や、天台浄土教の教説をとおして、わたしなりに考えてみたいと思っている。

（やまの としろう 准教授 仏教学）

2007年度 海外研修を終えて

中国 東北師範大学短期中国語研修

8月2日(木)～8月31日(金)
参加学生数 10名(引率者2名)

- 東北師範大学にて語学研修(26日間)
午前 授業
午後 授業または課外活動
- 小旅行
長春市内観光(彫刻公園、偽皇宮、長春映画世紀城等)、集安旅行(1泊)、哈爾濱旅行(日帰り)
- 北京にて文化研修(3日間)
故宮博物院(紫禁城)、天安門広場、万里の長城、明の十三陵、京劇鑑賞

今年度の語学研修は東北師範大学で3週間以上にわたって、中国語の勉強をしました。最後の3日間は北京にて中国の世界文化遺産を見学し、文化研修を行いました。参加者は10名で、やや規模の小さい研修団になりました。学生の構成は博士後期課程の大学院生から、大学第2学年までの各学科から集まってきました。学生はすこぶるまじめで、中国語をマスターすると同時に、中国文化にも肌で触れ



天安門広場にて

たいと意気込んでいました。

事前講義では行き先の地方にまつわる歴史や風俗、習慣を中心に、中国ですぐに役立つ会話を練習しました。学生たちは出発に備え、真剣に事前講義に出席しました。

8月2日から27日までは東北師範大学の先生によって、中国語の授業をしていただきました。授業はすべて中国語で行われ、午前中の授業は8時から11時30分までです。授業は「漢語読写」と「漢語聴説」です。午後は週に2回ほど

「語言実践」の授業がありました。先生は外国人留学生に教えるプロばかりで、意味が分かるように手振り、身振りを用いていました。日本でなかなか体験できないユニークな授業ですから、学生たちはとても楽しく、面白く感じたようです。毎日宿題も課せられ、学生たちは放課後も勉強に励みました。

課外活動はたいへん豊富でした。到着直後にまず長春市内の名所を見学しました。これまでの偽皇宮の他に、近年新しくオープンした娯楽施設も案内してもらいました。放課後に週に2回ほど太極拳の授業もありました。

日帰りホームステイが学生の間では、もっとも人気が高かったようです。提携先大学の配慮で、今年度はホストファミリーはいずれも日本語科の学生の自宅でした。事前に中国の学生たちと懇談し、親しくなってから、先方のご家庭を訪問しました。学生たちは中国人の家庭を訪問することによって、中国の現代社会に触れることができ、中国人の生活の一端をも垣間見ることができました。



授業風景

1泊旅行は吉林省集安市を訪問しました。この町は古代高句麗の都として名高く、高句麗古墳は世界文化遺産にも登録されています。

町は北朝鮮と隣接しており、中国北部の江南という別名があり、緑豊かでした。町には漢民族ばかりでなく、多くの朝鮮族が住んでお

り、中国のなかにある異民族文化にも接することができ、学生にとっては、珍しい体験となりました。哈爾浜旅行もたいへん充実していました。最後の北京旅行は3日だけという短い滞在でしたが、学生たちは習得した語学を駆使しながら、自分たちだけで町に出て、さまざまなことを実践しました。

今回の語学研修は長春の涼しい気候に恵まれ、語学研修はたいへん良い環境のなかで円満に終わりました。授業開始時間が早いにもかかわらず、学生のほとんどは無欠席と無遅刻でした。東北師範大学では、終了テストを実施しましたが、どの学生も満足のいく成績を収め、先方の大学に良いイメージを与えました。

今回の語学研修を通じて、中国で見聞したこと、学んできたことが学生たちの人生にプラスになることを期待しております。

(李 青)



長春彫刻公園にて



修了証書を手記念撮影

英国 キール大学短期英語研修

8月12日(日)～9月6日(木)
参加学生数 11名(引率者2名)

くのニューカスル・アンダー・ライム市と姉妹都市関係を結んでいる愛知県新城市からの交換留学生

1名も参加していたことから、全員で市長主催のレセプションに招待されたり、市議会議場や市長執

- キール大学にて語学研修(19日間)
- 文化研修：ストラットフォード、リヴァプール、チェスター、オックスフォード、グラッドストーン、リトルモートンホール
- ニューカスル・アンダー・ライム市庁舎見学
- ロンドンにて文化研修(4日間)

今年度の英国短期英語研修は、昨年度と同様、イングランド中部のキール大学で、大東文化大学(参加者21名)と合同で行われました。また、同プログラムには近



授業風景



キールホールの前で

務室を見学させてもらったりと昨年以上に盛りだくさんな内容となりました。

研修は、歓迎会とキャンパスツアーから始まり、その後、プレイスメントテストにより3つのクラスに分けられました。英会話の授業の他に、2～3人のチームごとにテーマを決めてインタビューをもとに発表するプロジェクトのための授業があり、両大学の学生たちはすぐに仲良くなり、伸び伸びと研修を楽しんでいました。

小旅行も昨年と同様、ビートルズを生んだリヴァプール、中世の雰囲気を残すチェスター、シェイクスピアの生誕地ストラットフォードを訪ねました。オックスフォードはロンドンに向かう途中に見学しました。キール一帯は陶磁器で有名な地域であり、グラッドストーンの工場で製作工程を見学したり、中世のマナーハウスとして歴史的価値の高いリトルモートンホールを訪ねました。

修了式は、ホストファミリーも列席する中で和やかな雰囲気のうちに行われ、最後に学生たち全員で感謝の気持ちを込めて「世界に一つだけの花」を合唱しました。

この研修の実施に当たっては、CIEL(Centre for International Exchange and Languages)所長のアネットさんを初め、コーディネーターのロビンさんやオーガナイザーのマンディさんに大変お世話になりました。アネットさんやマンディさんはホストファミリーとしてもお世話になりました。

学生たちは、前半はホームステイ、後半はキャンパス内の寮に宿泊しました。ホームステイが昨年よりも3日間長かったため、週末にはホストファミリーとドライブやパーティを楽しんだようです。

こうした多くの方々の厚意に支えられて、学生たちはイギリスでの生活を存分に楽しむことができ、貴重な経験を得ることができました。最初の頃、不安顔だったのが3週間でひとまわりもふたまわりも成長したように思います。研修に参加した一人ひとりがこの経験を生かして、今後につなげてくれるよう願っています。

(村瀬 順子)



ニューカスル・アンダー・ライムの市長夫妻と

ヨーロッパ文化研修<フランス>

8月23日(木)～9月4日(火)

参加学生数 35名(引率者2名)

○主な研修地：ストラスブール、オベルネ、ストリューホフ旧ナチス収容所、オー・クニグスブール城、コルマール、ライン河畔、エギスハイム、シゴルスハイムの丘、リクヴィル、カイゼルスベルク、キンツハイム(以上アルザス地方)、ディジョン、ボース、クロ・ド・ヴジヨー(ワインシャトー)、ヴェズレー(以上ブルゴーニュ地方)、パリ

今年度のフランス研修は、ドイツ国境に接するアルザスの多様な魅力を、4日間でゆったり味わうことからスタートしました。アルザスは、フランスのなかでも自然環境と街並みの調和がとりわけ素晴らしい地方です。しかしこれまで幾度となく独仏間での争奪の地として苦難の歴史を強いられた地方でもあります。美しいシゴルスハイムの丘に多くの無名戦士の墓と共に広がる激戦地跡や、旧ナチスの強制収容所ストリューホフを



中世の街オベルネ(アルザス)で



カーヴでのワイン試飲会

訪れたのは、今回の文化研修の大切な一頁でした。絞首台や人体実験の手術室もそのまま残る施設の

光景に参加者は強烈な衝撃を受けたようでした。かつてアルザスが強いられた歴史的教訓の重さや平和と自由の尊さについて、改めて深く思いをめぐらす機会ともなりました。

もちろん楽しい観光の部分が少なかったわけではありません。滞在中は、いかにもアルザス的な、まるで童話の世界を思わせるかわいらしい村の数々を時間をかけて散策しました。ライン河の岸辺で野生の白鳥たちと一緒に水遊びをしたり、100メートルをはるかに超えるストラスブール大聖堂の頂上付近まで、なんとほぼ全員が歩いて登ったり、移動型研修ならではの楽しいハプニングにも事欠きませんでした。

アルザス同様、キリスト教文化の歴史とワインづくりの伝統が息



モンマルトルの丘の見学からの帰り道

づくブルゴーニュでは、中世ブルゴーニュ公国の古都ディジョンや、ワインの都ボヌを訪れ、アルザスとはまた違った街並みや景観の魅力に触れることができたと思います。世界的に有名なワインシャトー、クロ・ド・ヴジョーでは、打ち解けた雰囲気の中でカーヴ見学と試飲とを楽しむことができました。マグダラのマリアゆかりの聖マドレーヌ寺院が建つ美しい丘全体が世界遺産に登録されている街ヴェズレーには、バスでパリに向かう途中で訪れました。

パリ滞在中には、皆フランス滞在にもすっかり慣れ、めいめい気ままに、美術館めぐり、ショッピング、散策、グルメにと、それぞれのペースで行動できるようになっていました。最後はあまり頼られることもなくなった引率者でし

たが、皆と共に楽しみ、ときには逆にサポートさえ受けたり、新たに発見することも多かった充実し

た研修でした。

(並木 治)



ボヌの施療院で

インド仏教遺跡研修

第1班 8月25日(土)～9月8日(土)

参加学生数 26名 (引率者3名)

第2班 9月1日(土)～9月15日(土)

参加学生数 26名 (引率者3名)

○おもな研修地

四大仏跡(ルンビニー・ブッダガヤ・サールナート・クシーナガラ)、カピラヴァストゥ、サハート(祇園精舎)、マハート(舍衛城)、ヴァイシャーリー、ラージギル(王舎城)、ナーランダ
 仏教大学跡

博物館：デリー国立博物館、サールナート考古学博物館、マトゥラー州立博物館

ヴァラナシ(ガンジス川西岸のガート・旧市街)、マトゥラー(ヤムナー川西岸のガート・周囲のバザール)、デリー(ラージガート他)、タージマハル、インド舞踊鑑賞

仏教が誕生した大地はどのような場所なのか。いまそこにどのような人たちが生き、いま何が起きているのか。みずからインドの大地に立ち、インドの文化世界にふ

れることは、われわれの学問にとって非常に重要な意味があることでしょう。1991年以降実施してきたインド仏教遺跡研修を今年度も無事終えることができました。



ブッダガヤ大塔の前で

現地研修の主たる目的は、釈尊誕生の地ルンビニー、成道の地ブッダガヤー、初転法輪の地サルナート、入滅の地クシーナガラをはじめとして、ラージギルなど仏典に登場する重要な仏教遺跡を訪れることにあります。加えて、デリーの国立博物館をはじめとする博物館で仏像のみならずさまざまな出土品を見ることをも目的としています。仏教遺跡として残る巨大な建造物や石像は、単なる歴史的人工物ではなく、そこに確かに仏教の信仰の道が開かれてきたことを、太陽に照りつけられた我々

に語ってくれていたと言ってよいでしょう。厳しい気候ゆえにしばしば苦しげな表情をうかべながら歩かなければなりませんでしたが、それにもまして、驚嘆し、歓喜し、そして時にはただただ沈黙することになりました。そのような熱心な学生たちの姿は、マトゥラー州立博物館を見学した折には、取材を受け地元紙に取り上げられました。

現代のインドは、伝統を保持する一方で劇的な変化を遂げつつあります。今回の研修においても、インド世界の様々な側面を垣間み

ることになりました。農村のゆったりとした田園風景、都市の新しい生活スタイルを象徴するようなショッピングモールやモダンな飲食店。都会であれ農村であれ、貧困と豊かさとのあまりの落差には言葉もありません。ゴミ問題をはじめとする深刻な環境汚染、大都市の交通渋滞。そして極めて深刻な宗教問題などです。

インド国内はバスと列車を利用して移動しました。クシーナガラでは藩王の別荘を改装してつくられた独特の雰囲気を持つインド様式のホテルにも宿泊し、インド料



霊鷲山での勤行



初転法輪の地サルナートにて

理を味わい、ヴァラナシではインド舞踊を堪能することもできました。とりわけ訪れた先々で現地の子どもたちと接した時の学生たちが見せる生き生きとした表情が印象的でした。学生たちはこの研修の経験をすでに雄弁に語ってくれているかもしれません。貴重な経験を経てみずからまた新たな一歩を踏み出してくれることでしょう。
 (箕浦 暁雄)



地元紙に掲載された記事

中国仏教遺跡研修

8月20日(月)～8月31日(金)
 参加学生数 17名(引率者2名)

鳴沙山(他)

○主な研修地

大同(雲崗石窟、懸空寺)、五台山(顯通寺・菩薩頂・竹林寺他)、太原(玄中寺他)平遥(平遥古城)、洛陽(龍門石窟)、西安(香積寺・草堂寺・興教寺・大慈恩寺・兵馬俑坑博物館他)敦煌(莫高窟・

中国仏教遺跡研修は、今年度はじめて開講された科目です。これはインド仏教遺跡研修と姉妹のような関係にある科目と言えます。仏教はインドで興り、中国から朝鮮半島を渡って日本へと伝えられました。この研修は、日本仏教に大きな影響を与えた中国の宗教と

文化に触れ、仏教の歴史を辿る旅となっています。今回は中国北部を中心に、『維摩経』や『法華経』『阿弥陀経』を訳出した鳩摩羅什、大翻訳家であり『西遊記』のモデルともなった玄奘三蔵、法然や親鸞に決定的影響を与えた曇鸞・道綽・善導、これらの高僧方の遺徳を偲びつつ、コースが設定されました。



龍門の石窟前で

総勢19名、関空から一路北京へ。北京では皆、その空気の悪さに驚かされました。噂には聞いていましたが、北京は今、2008年開催予定のオリンピックの準備で激しい建築ラッシュです。砂と埃と排気ガスなどで、3つ先の信号が霞んで見えるほどでした。着陸直後から、くしゃみ、鼻水、涙が止まらない学生も……。あの街中を、42.195キロ走り抜けるマラソン選手には、脚力や持久力とはまた違った、特別な心肺能力と勇気とが必要となるでしょう。

万里の長城を横目に北京を離れると、いよいよ仏跡研修が始まります。仏教の聖地五台山ではたくさんの参拝者ととも寺々をめぐり、雲崗・龍門・敦煌の三大石窟では、仏像の大きさに圧倒されたり美しさに眼を見張ったり。また、曇鸞・道綽・善導の3人が仏教研鑽のため居住した玄中寺では、勤行の後、誰もいない境内で、それぞれが感慨深く、静かでゆったりとした時を過ごしました。短期大学部の学生をはじめ文学部、大学院生まで、それぞれが別々の関



玄中寺

心を持って訪れた中国でしたが、日を追うごとに皆親しくなり、食べ過ぎに苦しんだり、現地の方との行き違いに笑い合ったりしながらの、楽しい旅となりました。

旅の最後は砂漠の街、敦煌です。列車に18時間ゆられ酒泉の街へ、そこからさらにゴビ砂漠をバスで往くこと8時間。どこまでもつづく砂漠の風景を、黙って見つめ続ける学生たちの姿が印象的でした。大地の広大さに圧倒され、自分た

ちの小ささを噛みしめていたのでしょうか。

敦煌到着後、涼くなった夕方にはみんなで屋台へくりだし、羊の串焼き「シシカバブ」に舌鼓を打ちました。あつという間だった楽しい中国の旅をふり返り、日本でのさらなる学びを誓いながら、夜更けまで語り合いました。

(木越 康)



莫高窟にて

2007年度 大谷大学 学園祭「紫明祭」

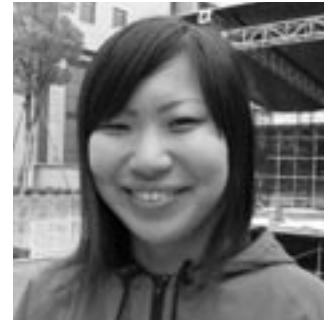
期 間：2007年11月9日（金）～11月11日（日）

テーマ

「It's “しょう” time! ～」

2007年度大谷大学学園祭実行委員会

委員長 青木 絵里子



今年も学園祭の季節がやってきました。11月9日に行う前夜祭が目前にせまり、毎日残された時間と闘いながら準備を進めています。

3年前の春、大谷大学に入学した私は、これから過ごすキャンパスライフの中で自分だけの「宝物」をみつけないかと思っていました。

入学して1ヶ月を過ぎた頃、「宝の地図」は突然あらわれました。何気なく参加した、学園祭実行委員を決めるためのジャンケン。高い志を持つことなく初めて学園祭に関わることになったのですが、その時の実行委員の先輩や仲間から学園祭中に「みんなで何かひとつのことを成しとげた後に得られるものは何よりも大事だ」と教えられ、気づきました。私は「宝の地図」を手に入れたのです。その言葉を胸に抱きながら3年。日々仲間に助けられ、また新たな出逢いの連続にとってもワクワクしながら、私は「宝物」に少しずつ近づいています...

今年度は、「全力を注ぎ伝説の

学園祭にしたい!!」という熱い気持ちをもった実行委員会の幹部、部員が集結しています。この熱い心がひとつになった学園祭は、学生・教職員・地域の方々・来場者など、学園祭に関わるすべての人々にとって、何かをはじめ「きっかけ」であって欲しいと思い、「さあ、はじめよう」という意味の「It's showtime!」になぞらえた「It's “しょう” time!」を今年度のテーマとしました。学園祭に関わることによってみつけた「きっかけ」を「笑」や「招」など「しょう」という音の漢字一字で表現してもらうため、「しょう」を平仮名にしています。また、このテーマのもつ音や響きによって、テーマそのものに親しみをもってもらい、大谷大学学園祭の明るくて、楽しい開放的なイメージを伝えたいと思っています。

このような願いや想いが込められたテーマのもと、2007年度大谷大学学園祭がまもなく幕を開けようとしています。3日間の学園祭

期間中に、より多くの方々に大谷大学へ足を運んでいただきたいと思っています。また、今年度は、「エフエム京都」のご協力により、大谷大学始まって以来のサンクンガーデン特設野外ステージから、ラジオ公開生放送も予定しています。遠方で大学へ来られない方にも、ラジオ放送を通して、学園祭に参加していただき、大谷大学のキャンパスライフを感じていただくと考えています。

2007年度大谷大学紫明祭において、皆様といっしょに盛り上げられることを楽しみに、一人でも多くの方々のご来場をお待ちしています。そして、テーマの意義にあるように、学園祭を通して、ぜひ、一人ひとりのテーマを創り上げてください。

この学園祭を通して私は「宝物」をみつけます。是非みなさんも、この学園祭で自分だけの「宝物」探してみてください。きっとわかりますよ!

タイムテーブル

期 間：2007年11月9日（金）～11月11日（日）

日	場所	イベント名	時間	内容概略
9日(金)	野外ステージ	前夜祭 ～パフォーマンスで“しょう”～	17:00～20:00	2007年学園祭「紫明祭」の開幕を告げるイベント。チアリーディングやダブルタッチによるパフォーマンス、イベント・展示・模擬店等の紹介、ビンゴゲームなど。
10日(土)	野外ステージ	変身王座決定戦	11:00～11:30	指定された服装に、いかにして早く着替えることができるかを競うイベント。一般来場者の参加も可能。
		エフエム 京都 α-STATION 「J-AC TOP 40」公開生放送 IN 大谷大学&アーティストライブ	14:00～20:00 (番組は、19:00 終了予定)	谷口キヨコさんがDJを務めるラジオ番組である「J-AC TOP 40」の公開生放送を行う。やなわらばーさんや奥村初音さんなどの出演もあり。
	博綜館 第1会議室	大谷大学同窓会 第12回ホームカミングデー	13:00～16:00	同窓会主催による同窓生の里帰り企画。
	北門	はじけろもろこし ふくらめ風船 ～バルーンポップ～	13:00～16:00	小学生以下の子どもを対象にポップコーン及び風船を販売するイベント。
	響流館 メディアホール	第4回全国高校生 「人間が大好きです!」表現コンテスト	11:00～12:00	大谷大学・KBS京都主催の映像やホームページによるコンテストの表彰式。
11日(日)	野外ステージ	Beat Performance ～音楽の奏演～	10:00～13:30	学内外で活動している音楽団体のライブ。
		楽菓来	14:00～15:00	劇など子どもを対象にしたイベント。
		「出したら戻せ!コレクトボール!!」	15:30～16:00	学内の団体を対象とした玉入れ競争を行うイベント。
		後夜祭 「輝け!ダンスの星!!」	17:30～20:00	2007年度紫明祭のグランドフィナーレ。ダンス大会及びダンスパフォーマンスを中心としたイベント。
	2号館 (2310教室)	2007年度紫明祭講演会 演題:「しつこく生きる」	14:00開演 (13:00開場)	第19回太宰治賞受賞作家小林ゆりさん(2000年大谷大学文学部哲学科卒業)の講演会。
	1号館 (1305教室)	北区 地域と大学つながるネット フリーマーケット	10:00～17:00 (販売は、16:00 まで)	大学周辺地域の方を主な対象としたフリーマーケット。
9日(金) 10日(土)	博物館	2007年度特別展 法隆寺一切経と聖徳太子信仰	9日 10:00～19:00 10日 10:00～17:00	大谷大学博物館所蔵の法隆寺一切経を中心に、書写の事情とその特徴を紹介。
10日(土) 11日(日)	博綜館プロテ	OBSサテライトスタジオ	10:00～20:00	大谷大学放送局による学園祭の案内及びイベント。
	キャンパス内	展示	10日 10:00～18:30 11日 10:00～18:00	学生が日頃の活動の成果を発表する展示。
		模擬店	10日 10:00～19:00 11日 10:00～18:00	各団体の個性あふれる学生による模擬店。
	学内食堂	サントリー酒場	16:00～19:30 (酒の提供は17:00～)	大谷大学体育会による酒場。
	博綜館保健室	-タバコ被害- 測定します	13:00～16:00	呼気一酸化炭素濃度を測定し、タバコによる害の程度をチェック。

委員会ホームページ (<http://shimeisai-otani.sasaeru.jp/>) もご覧ください。

イベント・時間や出演者の変更等がありますので、ご了承ねがいます。

2007年度紫明祭講演会

講師：小林 ゆり さん

演題：「しつこく生きる」

自分自身とつきあっていくことの難しさ、しつこく生きることの大切さについてお話しします。

日時：11月11日（日） 14：00開演（13：00開場）

会場：2301教室（2号館3階）

（講師略歴）

1976年 埼玉県生まれ。

2000年 大谷大学文学部哲学科卒業後、一般企業に就職。

2003年 『たゆたふ蠟燭』で第19回太宰治賞受賞。

（2004年に『真夜中のサクラ』と改題して筑摩書房より出版）

現在は、京都新聞、朝日新聞、図書館教育ニュースなどにエッセーを執筆。

昼は事務職、夜は執筆の2重生活を送っている。

趣味は寺社仏閣めぐり、人間観察。



大谷大学報恩講並びに歴代講師謝徳法要

大学報恩講並びに歴代講師謝徳法要を右記の日程で厳修いたします。皆さんお誘い合わせの上、ご参加ください。

日時 11月27日(火) 午前10時
場所 講堂
(記念講演)
講師 本学名誉教授 三桐慈海氏
講題 親鸞聖人と涅槃経

年末・年始の日程

12月26日(水) 宗祖御命日勤行
—事務休止—
1月7日(月) 修正会
授業再開

「学生向け情報提供システム」デザインをリニューアルしました！

9月28日(金)より、「学生向け情報提供システム」のデザインをリニューアルしました。

リニューアルに際しては、トップページに休講情報等を含む1週間分の授業予定を表示するなど、使いやすさに配慮したデザインとしました。

また、ユーザーのさまざまな利用環境や身体特性を考慮し、より多くのユーザーが本サイトの情報を利用しやすいよう、ウェブアク

セシビリティに配慮したページ作りをめざしています。具体的な指針としては、JIS規格 (X8341-3高

齢者・障害者等配慮設計指針—情報通信における機器、ソフトウェア及びサービス—第3部：ウェブコンテンツ) に準拠したデザインをこころがけました。

情報をより多くの

方々に分かりやすく伝えるために、今後もより一層改良に努めてまいります。



大谷大学開学の碑について

大谷大学の前身である真宗大学開学の地、東京巢鴨に2001年近代化100周年を記念して「大谷大学開学の碑」を東京都豊島区上池袋、区立宮仲公園内に建立しました。

このたび、東京都水道局より「大谷大学開学の碑」のある地域の水道工事（配水管新設工事）のため宮仲公園を作業ヤードとして

使用することになり、「大谷大学開学の碑」を一時保管し、工事完了後（2009年7月31日予定）復旧するとの届出がありました。

そのため、現在は「大谷大学開学の碑」の見学はできませんのでご承知ください。



真宗大谷派教師前期・後期修練、教師補任申請の説明会について

後期修練ならびに教師補任申請（大学院・文学部・短期大学の修了・卒業年次生主対象）の受講説明会を11月14日(水)に行います。

また、前期修練（短期大学部第1学年、科目等履修生真宗大谷派教師資格取得コース生主対象）の受講説明会を12月中旬に行います。

受講予定者は教務部掲示板にて日時等を確認の上、説明会に出席してください。

修士論文・卒業論文の提出について

◎論文提出・題目変更締切日について

来年3月、大学院修士課程修了見込み、文学部卒業見込みの学生は、右記の一覧表で論文提出締切日等を確認の上、期日を厳守してください。

なお、題目を変更する場合は、所定の「題目変更届」を教務部窓口で受取り、指導教員の承認印を得た上で、右記の題目変更締切日までに教務部へ提出してください。

◎提出場所について

教務部窓口へ提出してください。ただし、修士論文の提出最終日および卒業論文提出最終の2日間は右記の会場に提出してください。

— 題目変更・論文提出締切日時について —

種 別	題目変更締切日時	論文提出締切日時
修 士 論 文	12月3日(月) 午後5時	12月10日(月) 午後4時
卒 業 論 文	12月14日(金) 午後5時	1月10日(木) 午後4時

— 提出最終日の会場について —

種 別	最終日	会場
修 士 論 文	12月10日(月)	至誠館会議室(至誠館2階)
卒 業 論 文	1月9日(水) 10日(木)	多目的ホール (講堂棟3階)

(注意事項)

■論文等の提出方法や様式については『履修要項』や『修士論文作成の手引』『卒業論文作成の手引』で確認してください。

■ワープロ使用や縦書・横書等の様式については、専攻やコースにより制限事項が異なりますので、事前に指導教員と相談してください。

なお、ワープロを使用する場合で、所定の書式以外で提出する場合は、所定の「ワープロ書式所定

外作成届」を教務部窓口で受取り、指導教員の承認印を得た上で、題目変更締切日までに教務部へ提出してください。

■提出最終日の締切時間「午後4時」とは、題目確認・ページ数の記入・目次の作成・見返し等をすべて整え製本した状態で提出する最終時間のことです。午後4時の段階で、この要件を満たしていない論文は受領できませんので注意してください。

進路就職センター

進路就職センターは、就職や進学など、進路全般についての相談窓口です。相談や質問があれば、学年を問わず、進路就職センターに来てください。

また、進路就職センターでは以下のガイダンスなどを企画しています。詳細は、進路就職センターから発送されるDMや掲示、学生向け情報提供システムなどで確認してください。

■就職活動直前ガイダンス

日時：2007年11月24日(土) 13:00~17:00 会場：講堂

本格的に始まる就職活動を円滑に行うために、準備や取り組みなど“総まとめ”のガイダンスを開催します。(文学部第3学年、短期大学部第1学年、修士課程第1学年、博士後期課程第2学年対象)

■セールスポイント創造合宿

日時：2007年12月1日(土)・2日(日) 会場：湖西キャンパスセミナーハウス

申込期間：11月1日(木)~11月26日(月)

参加費：3,500円

本格的に始まる就職活動にむけて、自己PR・グループワーク・面接など実践的な取り組みを行います。(先着60名)

(文学部第3学年、短期大学部第1学年、修士課程第1学年、博士後期課程第2学年対象)

■ビジネスマナー・Uターンガイダンス

日時：2007年12月8日(土) 10:30～17:00 会場：講堂

就職活動におけるマナーや身だしなみ、Uターン就職にあたっての注意点を説明します。スーツを着用し、「就職のてびき」を持参してください。

(文学部第3学年、短期大学部第1学年、修士課程第1学年、博士後期課程第2学年対象)

■就職活動報告会

日時：2007年12月12日(水) 16:10～18:10 会場：響流館1階 ギャラリー (予定)

内定を得た卒業年次の学生に、どのように就職活動をしたのか質問し、アドバイスを受けるチャンスです。今後の就職活動のためにもぜひ参加し、有益な情報をつかんでください。

(文学部第3学年、短期大学部第1学年、修士課程第1学年、博士後期課程第2学年対象)

■履歴書写真撮影 (有料)

日時：2007年12月12日(水) 10:00～16:00

13日(木) 10:00～17:00

14日(金) 10:00～17:00

会場：至誠館2階会議室

就職活動で必要となる履歴書用写真を、学内で撮影することができます。

■面接対策講座

日程：2008年2月 (予定)

採用試験で実施される個人面接・集団面接の対策を行います。

教職支援センター

◇教員採用試験説明会

今年度の採用試験の結果をふまえて、公立学校や私立学校の採用試験(日程・傾向・対策など)について説明します。教職を希望する学生は必ず出席してください。

日時：2007年12月4日(火) 17:50～19:20

会場：J103教室

◇教職登録カードについて

教職登録カードは、教職を志す皆さんが、教職支援センターで実施しているさまざまな支援やリアルタイムな求人情報を得るために必要な手続きです。教職を希望する学生で、まだ提出していない学生は教職支援センターに早急に提出してください。

教師になるには、どうすればいいの？ ④

～教員採用試験に備えて～

教職アドバイザー 長谷川 浩三

面接や論文対策は今や不可欠！

前回では、教員採用試験の受験対策を述べましたが、具体的な例として、今年度始めました本学での直前講習について紹介します。この講習は、従来の特別講習に論文指導、個人・集団面接指導を加え、それぞれに個別指導を取り入れた受験対策の仕上げとも言えるものです。受講者の感想には、「面接や論文の指導など自分や友達同士ではできないアドバイスなどがもらえてとても充実していた。」「一人ひとりに細かく講評してもらえるので、自分の良いところや悪いところが明確になった。」など好評でした。集団面接や個人面接などの経験がなかった受講生にはいい体験であったと言えます。このような講習を受けることは、合格に直結しますので、積極的に受講してください。

面接試験・論文試験はどのような形で行われるか

面接試験には、個人面接と集団面接があり、1分間スピーチ、

集団討議や模擬授業が課されることもあります。個人面接は、教員としての資質・性格を把握することや、教育や教職への思い、判断力、意欲などを確認する手段として行われます。集団面接では、社会性や他の人との協調性、論理性、指導性などが試されます。これらの能力は、一朝一夕では身につかないものです。大学での授業や部活動、サークル活動等で磨かれ、身に付いてくるものです。また、自分の考えや思いを、整理したり、まとめたりしておくことは、論理性や判断力を養うことにつながります。日常生活を大事に過ごしてください。

一般教養・専門教養対策はどうするか

もちろん、一般教養（特に理数）及び専門教科の筆記試験対策は、個々で計画的に第1学年から進めることが肝要です。本学では、文学部のみなので、理数系の学習をする機会は、自分で創り出すしかありません。一般教養試験問題は、ほとんどが

択一式ですので、皆さんが大学入試時に勉強した内容の復習で十分対応できます。専門教養は、記述式です。よって、専門教科の力を授業で高めておかねばなりません。同時に、教師の資質の一つである、誤字・脱字の克服を心がけましょう。

受験先自治体の特色をつかんでおこう

企業の採用試験を受ける場合、当然、その企業の業績や今後の成長性などを調べるでしょう。教員採用試験も同様です。教員になるのにその自治体のことを何も知らないのでは、受験が“冷やかし”と受け取られかねません。ホームページを見て、何をめざしているのか、どんな教育を行おうとしているのか、どんな事業を推進しているのか、自分のめざす教育方針や教育方法と合致しているのか、を必ず確認しておきましょう。「なぜ、ここを受験したのですか」と問われることの答えでもあります。

(参考) 優れた教師の3要素

- ①教職に対する強い情熱…使命感・誇り・愛情・責任感
- ②教育の専門家としての確かな学力…子どもへの理解力・生徒指導力・集団の指導力・学級づくりの力・教材解釈の力
- ③総合的な人間力…豊かな人間性や社会性・常識と教養・礼儀作法など対人関係力・コミュニケーション能力・協調性

教員採用試験の実際

試験実施	62の都道府県教育委員会と政令指定都市教育委員会によって行います。ただし、一部の政令指定都市では県と合同で実施のところがああります。
試験内容	知識の獲得量をペーパーテストで検査するというイメージがあるかもしれませんが、高い資質が求められる中、得意分野を持つ個性豊かで多様な人材を確保するため、選考方法が多様化しています。試験は、一次試験と二次試験に分け、教養・専門などの筆記試験や面接試験（個人・集団）、実技試験、論文・作文試験、模擬授業・指導案の作成、場面指導、適性試験等を組み合わせて実施されます。最近では、実践力や人物を重視する構成にする都道府県市が多くなっています。

『大谷大学教職支援センター研究紀要』刊行

このたび教職支援センターでは、『大谷大学教職支援センター紀要』を刊行いたしました。

今回は、創刊号ということで、本学で教職科目を担当しておられる先生方に、教職をめざす学生諸君が読むことを念頭に置いて執筆していただきました。授業で取り扱っているテーマの解説や授業の補足的な内容、教材研究の具体例など、わかりやすく説明されています。

教職支援センターでは、教職の授業以外にも教職に関する知識や情報を提供したいと考えています。この意味で、『研究紀要』を積極的に活用していただきたいものです。

なお『研究紀要』は、希望者には無料で配布いたします。希望者は、教職支援センターまでお越しください。



GLOBAL SQUARE

GLOBAL SQUAREでは、留学相談や留学情報の提供、語学勉強会、留学生との交流イベントなどを実施しています。各種イベントなどの詳細は、ホームページやGLOBAL SQUARE掲示板で確認してください。

URL : <http://web.otani.ac.jp/gs/>

■学生スタッフ募集

GLOBAL SQUAREイベントの企画・実施や留学生のサポートなどをする学生スタッフを募集しています。国際交流や留学生との交流に興味のある人は、ぜひ参加してください。

■語学勉強会

英語、韓国・朝鮮語、中国語、ドイツ語、フランス語、サンスクリット語の勉強会を実施しています。定員に余裕のある勉強会は途中参加も可能です。興味のある方はGLOBAL SQUAREへお問い合わせください。

■留学相談

個別の留学相談に応じています。相談希望の方は、カウンターで申し込んでください。

留学相談の時間：10：30～17：00（月～金）

学生相談室から

無駄ノススメ

最近、ちよつとぶよぶよしてきた。明らかに運動不足だ。去年、履いていたジーンズが少しキツイ。何とかしなければと焦った私は、ちよつと前に話題になっていた「某国陸軍式トレーニング」のDVDを購入し、「入隊」した。指導しているマツチヨなトレーナーとDVDに出演している女性たちのような、ムダなぜい肉のない研ぎ澄まされた体になることを夢見て。しかし、開始早々、たった十五分で「除隊」することになった。とてもじゃないが、あんなキツイ筋トレはできない。

挫折したから悔し紛れに言うのではないが、だいたい「ムダ」がダメだなんて誰が言い出したのだろう。「時間をムダにしてはいけない」「ムダ打ちはしない主義よ」「頑張ったのに結局ムダだった」など、どうして「ムダ」を目の敵にするんだろう。だいたい、人生の半分以上は「ムダ」ででき上がっているものなのに。

「ムダ」を排除した、効率のいい、無難で危なげのない生き方なんて本当につま



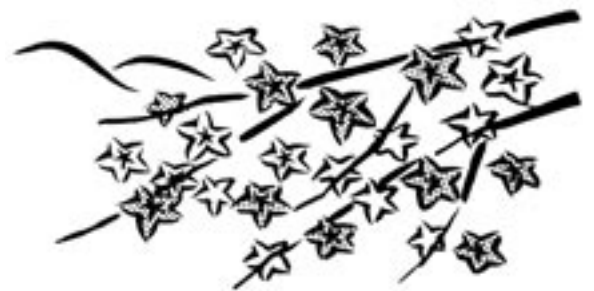
らない。「ムダ」という影があるから、人生には幅も厚みも出てくるのだ。「ムダ」な体験や「ムダ」な時間が、あなたの人生をより豊かに彩ってくれる。相談室では、あなたが「ムダだ」と思っているものの意味や価値を見いだせるお手伝いができればいいなと思っている。

(かんだ けいこ)

神田 敬子

学生相談室の開室について

場 所	曜 日	学生相談員	相談日時
学生相談室 (博綜館1階)	月曜日	谷口 奈青理 神田 敬子	10時30分～16時00分
	火曜日	西澤 伸太郎	10時30分～16時00分
	水曜日	宇佐 晋一 (神経科校医)	第2週・第4週 13時00分～16時00分
	木曜日	譲 西賢	10時30分～16時00分
	金曜日	久保 聡史	10時30分～16時00分



谷大エリア散策

第29回 ボンニー美容室さん

烏丸北大路の南東角にある「ボンニー美容室」の福村有記さんにお話を伺いました。



お店の外観

—お店を始められたのはいつ頃ですか

1939(昭和14)年に父の母、私の祖母が美容室を始めました。ずっとこの場所にあります。祖母の時代は個人の店でしたが、1979(昭和54)年に会社になりました。現在は父が店長で、母と私、5人のスタッフの計8人で店をやっています。

—店名の由来を教えてください

戦後の一時期、なぜか店の名前にカタカナの「ン」をつけるのが流行ったそうです。運がつくという縁起かつぎなのでしょう。うちも元々はBonnyという店名だったのが「ボンニー」になりました。



福村さん親子

—お客さまはどのような方が多いですか

やはりご近所の方が多くですね。それから交通の便が良いので、滋賀県など意外と遠方からも来てくださいます。お引っ越しされた後

も引き続き来てくださる方が結構おられまして、とてもありがたいです。

男性も来られますし、お客さまの年齢層は広くて、現在3歳から96歳までの方がおられます。96歳の女性の方は週1回くらいお越しになりますよ。お一人で歩いて来られます。きれいにしていきたいという意識を持ち続けることが、いつまでもお元気でしっかりしておられる秘訣なのでしょうね。



店内の様子

—谷大生や職員はよく利用していますか

大谷の学生さんは時々来てくださいます。お寺の子女の方が多いようですので、最初に来店されたとき「お寺の方ですか」とお尋ねしてお話を始めます。そうして親しくさせていただいても、学生さんは4年経つと帰られてしまう方が多いので少々寂しくもありますね。卒業式の着物の着付けとヘアメイクは毎年させていただいています。

以前大谷の講師をしておられた先生で、大学を代わられてからもずっと来店して下さっている方もおられます。それから受験シーズンになると、受験生の付き添いのお母様が待ち時間のあいだに寄ってくださることがあります。毎年必ず来られますよ。

—大学との昔からの交流はありま

すか(お父様で店長の福村毅之さんにお聞きしました)

以前は、学園祭の司会の方の振り袖の着付けなどもずっとうちでやらせていただいていたよ。いろいろな催しに参加させてもらったこともありました。ただ、今はお祭りのようなことをする機会自体が少なくなりましたね。

—美容師のお仕事をされていて、やりがいや楽しさを感じられるのはどんなときですか

やはりお客さまに喜んでいただいた時ですね。それに尽きます。初めてのお客さまが再び来店して下さった時とても嬉しいです。

店は常に忙しいですが、なかでも年末、成人式、卒業式のシーズンが一番忙しくて、早い時には朝5時30分頃にお客さまが来られることもあります。昼食が夕食になってしまうこともあります。それでもお客さまが「きれいになった」と喜んでくださると心から嬉しく思います。

この仕事は人の気持ちを汲むことが一番大切だと思っています。どうしたら気分を良くしていただけるか、喜んでいただけるかを常に考えてお客さまに接するよう心掛けています。これからも、皆さんに喜んで帰っていただける、笑顔の絶えない店をめざして頑張っていきたいです。

—ありがとうございました



店内の入口ディスプレイ

写真でふりかえる 大谷大学今昔



博綜館の第一研究室

広々とした
響流館の総合研究室



研究室 (その二)

東館 紹見

構内全体の総合整備計画のもと、一九八二(昭和五十七)年には博綜館が建築され、研究室のあり方は大きく展開した。それまで分野ごとに一室とされていた文学部の研究室は、異なる分野にも視野を広げ、学術的な交流をすべきであるとの独創的な構想のもと、専門分野の特性を生かしつつ共通の書庫を介して交流することを期した研究室四群、書庫六層の研究室として開設されたのである。

西南の五、二階に第一(真宗学・仏教学)、第一(哲学・社会学)、第三(史学)、第四(文学)の各研究室が置かれ、これらが書庫を通じて繋がっていた。特別研修員(現在の任期制助教に当たる)とカウンターに庶務を担当する女性事務員が常駐し、博士後期課程の学生の個人デスクもあった。教員・学生はもとより非常勤の先生や時には卒業生もがにぎやかに出入りし、談論風発、和やかだったその雰囲気は、そこで多くの時間をすごした筆者には今なお忘れられないものとなっている。現在、研究室の跡は演習室に改装され、奥の階段に書庫の面影を見ることができ。

二〇〇一(平成十三)年には、異なる分野の交流をめざす研究室の理念をそのまま実現し、全分野をワンフロアとし、その名も総合と名づけられた研究室が響流館に完成した。

筆者に限らず、研究室で育てられたとの実感をい多く人は少なくないであろう。時代は変われども、それぞれの過ごした研究室の思い出を語る時、話題は尽きない。専門分野の役割と意義を自覚しつつ、同時に他分野の視点・対象に敬意を払い、それとの親密な交流を大切にするのが本学の学风である。響流館の総合研究室も、その名のごとく、真理に照らされる私たちの学びが、互いの心にそして世界に、広やかに響流してゆく拠点となってほしいと切に願う。

(ひがしだて しょうけん 講師 日本仏教史へ古代・中世)

総合研究室から

2007年11月から12月までの総合研究室の開室時間は以下のとおりです。宗教行事、学園祭等により開室日や

11月	日	月	火	水	木	金	土
					1	2	3
	4	5	6	7	8	9 ^{※1}	10
	11	12	13	14	15	16	17 ^{※2}
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26 ^{※3}	27 ^{※4}	28	29	30	

濃い黄字は、響流館の休館日
薄い黄字は、10時開室 17時30分閉室
黒字は、9時開室 19時30分閉室

- ※1 学園祭期間中（11月9日～12日）は、9日（金）が開室10時、閉室15時です。10日（土）と12日（月）が開室10時、閉室17時30分です。
※2 11月17日（土）は公募制推薦入試のため、閉室です。
※3 11月27日（火）は大学報恩講のため、開室13時、閉室19時30分です。
※4 11月28日（水）は宗祖御正忌のため、閉室です。
※5 12月2日（日）と9日（日）は修士論文提出締切日直前のため、開室します。（開室10時、閉室17時30分）

開室時間が変則的になっていていますので、注意してください。

2008年は1月7日（月）より開室します。

12月	日	月	火	水	木	金	土
							1
	2 ^{※5}	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29
	30	31					

なお、開室日や開室時間の変更は、ホームページ・学内掲示板でお知らせします。ご確認ください。

文化学科研究室から

「スピーチコンテスト」

日程：12月5日（水）

響流館メディアホール

時間：10時40分より12時10分、
12時50分より14時20分
（予定）

参加者：短期大学部文化学科学生

幼児教育保育科研究室から

○幼児教育保育科第2学年は『卒業研究』を2部作成し、1部は教務部に、もう1部（コピー可）は幼児教育保育科研究室に提出してください。提出締切は11月30日（金）・祝日授業あり午後4時【厳守】です。なお、題目変更届及びワープロ書式外作成届は、11月23日（金）午後5時までです。
○〈幼教フェスティバル2007〉を12月16日（日）に開催します。器楽合奏・ダンス・劇など学生自身による手作

りの発表会です。午前の部は11時から12時15分まで、午後の部は1時30分から4時30分までの予定です。詳細は後日幼児教育保育科専用掲示板等でご確認ください。

○第2学年が提出した『卒業研究』の発表会を1月9日（水）第5時限・第6時限（午後4時10分～7時20分）に開催します。授業の一環として開催することですので、第1・2学年とも全員出席してください。会場は

メディアホール（響流館3階）です。詳細は後日2号館1階の幼児教育保育科専用掲示板及び各ゼミ教員からお知らせします。

○現在、幼児教育保育科一般研究室の図書を借りている方は、期限を守って返却してください。なお後定期末試験1週間前からは貸し出しができませんので、ご了承ください。

勉強会のお知らせ

総合研究室では、任期制助教による読書会・勉強会が開催されています。参加希望者は担当者まで。

1	『観経四帖疏』輪読会
2	学科・学年不問
3	毎週火曜4限
4	斉藤（真宗学）
5	総合研究室の斉藤まで
6	善導の『観経四帖疏』を輪読します。善導の著作に親しむことを目的とします。テキストは『真宗聖教全書』第一巻です。

1	『歎異抄』をドイツ語で読む
2	専門分野は不問 ドイツ語を1年以上学習している人
3	月曜日もしくは木曜日（予定）
4	富岡（真宗学・真宗保育） 佐々木（ドイツ文学）
5	総合研究室の富岡、ないし佐々木まで
6	ドイツ語訳された『歎異抄』を、日本語オリジナルおよび他のドイツ語訳と比較しながら精読します。『歎異抄』がどのようにドイツ語圏に発信されているか興味のある方、また、ドイツ語訳を通して『歎異抄』の理解を深めたい方はぜひ参加を。なお、テキストおよび関連資料はコピーして配布します。

1	大学院入学試験受験希望者向け英語読書会
2	大学院進学希望者
3	毎週土曜日 午前11時から午後0時半頃まで
4	神崎（倫理学）
5	総合研究室の神崎まで
6	大学院で哲学を勉強したいと考えている学部生を対象として、英語の哲学文献に慣れることを目的に、読解の訓練を行います。

1	社会と文化に関する研究会
2	院生、学部生
3	参加者と相談の上決定
4	福田（社会学）
5	総合研究室の福田まで
6	社会学、文化人類学に関する文献の講読、フィールドワークの準備・結果報告、社会系・人文系共通テーマの討議等を行います。

1	『高僧伝』輪読会
2	院生・学部生を問わないが、基礎的な漢文読解力があることが望ましい。
3	隔週水曜2限
4	清水（東洋史学）
5	総合研究室の清水まで
6	中国南朝梁・慧皎が著した僧伝『高僧伝』を読みます。巻一訳経篇上から順に読み、最終的に15巻すべてを読破することをめざします。担当者は事前に決めず、その場で希望者に訓読と簡単な用語解説をしてもらいます。内容を深く掘り下げることも、スピーディーな通読によって多くの僧伝に触れ、合わせて漢文読解力を高めることを目的とします。

1	大学院入学試験（春季）英語対策
2	修士課程および博士後期課程入学試験（春季）を受験する予定で、英語問題を選択しようと考えている人
3	参加者と相談の上決定
4	源（イギリス文学）
5	総合研究室の源まで
6	参加者の希望により、修士課程ならびに博士後期課程「外国語」（各専攻共通）「英語」の過去問を解く練習をします。（国際文化専攻の人は、必要に応じて「専門」の英語文献読解問題にも対応します。）

1	心理学（精神分析）関連の文献をドイツ語で読む
2	専門分野は不問 ドイツ語を1年以上学習している人
3	毎週金曜5限（予定）
4	佐々木（ドイツ文学）
5	総合研究室の佐々木まで
6	心理学、とりわけ精神分析関連の文献を精読します。今のところ「同性愛」関連の入門書の抜粋を読んでいます。その後用いるテキストは、希望者と相談した上で決めます。初級文法を復習しつつ、ゆっくり進みますので興味ある人はぜひ。テキストはコピーして配布します。

- 1 会の名称
- 2 参加対象
- 3 日程・時間
- 4 担当者名
- 5 連絡先
- 6 趣旨・概要

※一部の読書会、研究会は演習室で開催しています。

学会だより

真宗学会

第2回真宗学会例会

開催日 11月7日(水) 14時30分から16時
場 所 尋源講堂
講 師 山田 恵文 専任講師
講 題 未定

第3回真宗学会例会

開催日 11月21日(水) 14時30分から16時
場 所 尋源講堂
発表者 藤原 智 (博士後期課程第1学年)
岩倉 彰則 (博士後期課程第1学年)

修士論文中間発表会

開催日 11月6日(火) 14時30分から
場 所 2号館1階2101教室

卒業論文中間発表会

開催日 12月6日(水) 17時50分から
場 所 2号館1階2101教室

第4回真宗学会例会

開催日 12月19日(水) 14時30分から16時
場 所 尋源講堂
発表者 後藤 智道 (博士後期課程第1学年)
花園 一実 (博士後期課程第1学年)

仏教学会

史跡踏査

開催日 11月28日(木)
詳細が決まり次第お知らせします。

公開講演会

開催日 12月4日(火) 16時10分から
場 所 響流館3階メディアホール
講 師 中島 岳志氏 (北海道大学准教授)
講 題 未定

研究発表例会

開催日 12月20日(木) 16時10分から
場 所 響流館3階マルチメディア演習室
発表者 N. ティエン イエン
(博士後期課程第3学年)
小澤 千昌 任期制助教

卒業論文梗概発表会 並びに送別懇談会

開催日 1月
詳細が決まり次第お知らせします。

西洋哲学会・倫理学会

西洋哲学・倫理学会秋季公開講演会

開催日 11月22日(木) 16時10分から
場 所 尋源講堂
講 師 清水 哲郎氏 (東京大学大学院人文社会系研究科教授)
講 題 「死に向かいつつ希望を持つ」

哲学会

秋季研究会

開催日 12月5日(水) 16時10分から
場 所 響流館3階マルチメディア演習室
・発表者 中田 英利子 任期制助教
発表題目 「ソースモニタリング課題における誤判断」
・発表者 竹中 正太郎
(博士後期課程第2学年)
発表題目 「身体的位置づけ」

中国文学会

中国文学会学術公開講演会

開催日 12月11日(火) 14時30分から16時
場 所 尋源講堂
講 師 中原 健二氏 (佛教大学教授)
講 題 「中国古典詩の解釈
—李商隠「楽遊原」を題材に—」

英文学会

英文学会年次大会

12月に開催予定
詳細が決まり次第お知らせします。

出版物紹介

『초기화엄사상사』

(初期華嚴思想)

織田顕祐 著

仏教時代社 刊

(2007.4) 295頁



『大谷派なる宗教的精神』

—真宗同朋会運動の源流—

水島見一 著

真宗大谷派宗務所出版部 刊

(2007.9) 345頁



『近世略縁起論考』

石橋義秀・菊池政和 共編

加藤基樹 分担執筆

和泉書院 刊

(2007.9) 232頁

『日中両国の視点から語る』

植民地満州の宗教』

木場明志・程舒偉 共編

桂華淳祥・李青 分担執筆

柏書房 刊

(2007.9) 526頁

『解脱の宝飾—チベット仏教成就者』

たちの聖典『道次第・解脱荘嚴』

ガムポパ 著

白館戒雲・藤仲孝司 共訳

UNIO 刊

(2007.7) 445頁

『生徒指導の方法と実際』

加藤豊比古ほか 編

佐賀枝夏文・水島見一 分担執筆

八千代出版 刊

(2007.4) 261頁

『戦後仏教社会福祉事業の歴史』

長谷川匡俊 編

佐賀枝夏文 分担執筆

法藏館 刊

(2007.5) 251頁

『戦後仏教社会福祉事業史年表』

長谷川匡俊 編

佐賀枝夏文 分担執筆

法藏館 刊

(2007.5) 277頁

『五来重著作集』

第一巻日本仏教民俗学の構築』

五来重 著

法藏館 刊

(2007.10) 444頁

[学内刊行物]

『大谷大学教職支援センター』

研究紀要』

大谷大学教職支援センター 編・刊

(2007.8) 105頁

詳しくはP.36をご参照ください。

『人権センター叢書 vol.4』

大谷大学人権センター 編・刊

(2007.4) 95頁

『人権センター叢書 vol.5』

大谷大学人権センター 編・刊

(2007.8) 59頁

「大谷大学広報07—冬」発行のお知らせ

「大谷大学広報07—冬」の発行を来年1月に予定しています。さまざまなエッセイや連絡事項などを掲載する予定です。ぜひお読みください。広報は次の場所に置いてありますので、ご自由にお取りください。

①博綜館ピロティエ（博綜館入口横） ②至誠館（学生課カウンター前） ③響流館（教育研究支援課カウンター横） ④学内食堂
⑤各研究室 ⑥1号館1階 ⑦2号館1階

また、大谷大学ホームページから、バックナンバーを含め広報の閲覧が可能です。

http://www.otani.ac.jp/annai/shuppan/d_kouhou.html

大谷中学・高等学校からのお知らせ

★新校舎・広場・渡り通路等が完成しました

前回の『大谷大学広報』No.172号で新校舎が完成したことをお知らせしていましたが、4月から北校舎の東側半分を取り壊して、その跡地に大きな広場（2面のバレーボールコートと芝生のフリーコート）と、図書館・講堂・ダンスルーム・第一体育館等を繋ぐ渡り通路が完成し、8月31日(金)にその竣工式が行われました。



★大谷中学校・高等学校の来年度入試の概要をお知らせします。

中学校入試について（募集人員105名）

日程	試験日	試験区分	試験内容
前期	1月19日(土)	S入試	作文・面接・書類（小学校5・6年の成績）による総合審査
	1月19日(土)	A入試	国語・算数（各50分、各150点）・理科・社会（各35分、各100点）
後期	1月20日(日)	B入試	国語・算数（各50分、各150点）・理科・社会（各35分、各100点）
	1月23日(水)	C入試	国語・算数の2科目（各50分、各150点）

出願期間 — S・A・B入試 — 1月7日(月)～1月11日(金)、いずれも、午前9時30分より午後4時まで
 — C入試 — 1月7日(月)～1月11日(金)、午前9時30分～午後4時まで
 — 1月7日(月)～1月11日(金)、午前9時30分～午後4時まで
 — 1月22日(火)、午前9時30分～正午まで

出願方法その他 — 本校事務室まで、窓口出願か郵送出願（但し期間内必着です）

合格発表日 — S・A・B入試は、1月22日(火)、午前9時30分より本校で掲示【本校ホームページでも掲載します】
 — C入試は、1月24日(木)に午前9時30分より本校で掲示【本校ホームページでも掲載します】

高等学校入試について（募集人員280名）

日程	試験日	試験内容	受験対象者
前期入試	2月9日(土)	国語・社会・数学・理科・英語の5科目	専願者及び併願者
後期入試	2月11日(月・祝)	国語・数学・英語の3科目	併願者のみ

出願期間 — 1月24日(木)は、午後1時より午後4時まで
 — 1月25日(金)・28日(月)・29日(火)は、午前9時30分より午後4時まで
 — 1月30日(木)は、午前9時30分より正午まで

出願方法その他 — 本校事務室まで、窓口出願か郵送出願（但し期間内必着です）

合格発表日 — 2月14日(木)、本人宛に郵送します。
 — また、本校ホームページにも掲載（午前9時30分より）



★オープンキャンパス・学校説明会・入試説明会のお知らせ

大谷中学校

11月17日(土)
 オープンキャンパス。午後2時より午後4時30分まで
 12月9日(日)
 入試説明会。午前10時より午後0時30分まで

大谷高等学校

11月17日(土)
 学校説明会。午前9時30分より午後0時30分まで
 12月9日(日)
 入試説明会。午後2時30分より午後4時30分まで

九州大谷短期大学からのお知らせ

■ 学科・専攻および入学定員

1. 募集学科・定員 [全学科 男女共学]

- 仏教学科 10名
- 表現学科 50名
演劇放送フィールド
情報司書フィールド
- 幼児教育学科 100名
幼児教育コース
児童福祉・心理コース
児童福祉・心理コース
- 専攻科福祉専攻 30名
- 福祉学科 50名

2. 入試日程

入試区分	出願期間	試験日
公募推薦入試（第1次） 自己推薦入試（第1次） 社会人入試（第2次） 長期履修生（第1次） 社会人特別入学（第Ⅱ期）	11/1(木)～ 11/9(金)必着	11/16(金)本学 11/15(木) 北九州・佐世保・八代 ・大分・鹿児島・沖縄
公募推薦入試（第2次） 自己推薦入試（第2次） 社会人入試（第3次） 社会人特別入学（第Ⅲ期）	12/10(月)～ 12/18(火)必着	12/25(火)

3. 入試科目

- 作文・面接（社会人は面接のみ）
- *社会人特別入学については九州大谷短期大学広報室までご連絡ください。

■ 社会人特別入学制度

2008年度募集よりスタートする新しい入学制度です。1回の入試で判断するのではなく、面談等を通して入学を決定していく事前相談型の入学制度です。出願が許可されれば必ず「合格」となります。詳しくは九州大谷短期大学広報室までお問い合わせください。

九州大谷短期大学広報室

http://www.kyushuotani.ac.jp/
 福岡県筑後市蔵敷495-1
 Tel.0942-53-9900 Fax.0942-53-9901
 E-mail kouhou@kyushuotani.ac.jp

斎藤茂吉博士の随筆にこんなものがある。オーストリア留学時、夕暮れを散歩してみたところ、道中で接吻する男女を目にした。「一種異様なものに逢着した」と思った博士は、ふり返りふり返りして歩んだが、二人は身じろぎもせずそのままである。なぜかしら博士は「やや不安」になって「これは気を落付けなければならぬ」と思い、木かげから二人を観察する。一時間あまりも経ってから、博士は依然として変化のない二人を残し、その場をふと立ち去るのであった。なるほど、かくも長時間の接吻は「一種異様なもの」であるに相違ない。相違ないが、かくも長時間に渡って観察するほうもするほうである。

茂吉博士には及びもしないが、わたくしも一種異様なものに逢着した経験がある。地下鉄の北大路駅である。階段を下りていると、電車の来た気配がしたのでホームに駆け下りた。そこで逢着したのが、黄金地に松やら鶴やらの描かれたところの、豪華絢爛というべき外装の車両だった。後で聞くと、それは地下鉄開業20周年記念として二条城障壁画を印刷した特別列車なのであった。せっかく走ってはきたけれど、わたくしはやや不安になり、これは気を落ちつけなければと思ってベンチに座った。ところが周囲の人々は当たり前顔をしている。あまつさえ平気な様子で降り（のりま）でしている。一種異様である。畢竟これを考えた

人は、きっとこうなればおもしろいと思ったのである。わたくしも同感である。

わたくしが何とか当たり前の顔をして黄金車両に乗れるようになった頃、今度は新聞紙上で一種異様な記事と逢着することになった。記事は、「京都検定」、正式には「京都・観光文化検定試験」という名の検定試験が実施されることを平気な様子で伝えていた。検定と言えば、英語や漢字などの極めて実用的な資格を想起するわたくしにとって、「京都検定」とはいかにも不思議な響きである。当然わたくしはやや不安になり、これは気を落ちつけなければと思って記事を読み直した。主催は京都商工会議所である。かつてにわか

話題の広場 SQUARE

京都検定 或いは「一種異様なもの」

大秦 一 浩



絵 内山智廣

エム京都をつくった如く、またぞろ旦那衆が何かおもしろいことをしてみようと考えたのだろうか。そんな不埒な思いもつい心をよぎったが、もちろんそうではなくて、「京都検定」は、試験の体裁をとりつつ地域の魅力を発信する目的をもつとのこと。国土交通省近畿運輸局・京都府・京都市という行政の後援があり、また諸大学の協力もあって、産官学による協調事業とも言えそうである。そして、このような、地域を発信する手段としての検定試験、いわゆるご当地検定は日本各地で行なわれているものなのであった。

試みにインターネットで「検定」をキーワードに検索なさるとよい。たちどころにきら星の数ほど多量の検定が、ご当地検定のみならず多様に見出されるはずである。兵庫県に「明石・たこ検定」あれば、鳥取県に

「境港 妖怪検定」あり。「阪神タイガース検定」の受験者はつわもの揃いだろうし、「映検（映画検定）」はもしかすると「英検」より難しいかもしれない。中には一体どんな試験で何を検定するのかさっぱりわからぬものもあるが、とにかくに検定は流行しているのである。

「京都検定」は、ご当地検定の嚆矢ではないけれども、このような流行を牽引する存在であるらしい。なにしろ受験者数が万人を超えるのである。しかも、広報的な目的をもつので、受験者をええ気分させれば良いのに、決して愛想が良いとは言えず、合格率は高くない。一種異様である。しかしそれにも関わらず、これほど多くの人が受験する。すなわち一見実用性のない検定試験に無用の用と言うべき価値を見出せるというのは、近年の効率偏重と言

うべき側面をもった世の風潮に鑑みて、一つの快哉事と捉えてもよろしいのではあるまいか。いや、むしろこのような世だからこそ、このような検定の流行を見るのであろうか。これは気を落ちつけて考えてみなければなるまい。

なお、冒頭に掲げた茂吉博士の挿話には続きがある。あの後、仮寓に帰って床のなかにもぐり込んだ博士は、気がしずまると、あの一種異様なものについて、「あれはどうもいい」と、しみじみ思われたのであった。

ちなみに、「京都検定」に協力する諸大学の本部は、われらが、大谷大学に、ある。

（おおはた かずひろ）
講師 国語学